



苫小牧市スポーツ施設整備計画（案）

令和 3 年度～令和 12 年度

【2021～2030 年度 10 カ年計画】

苫 小 牧 市
(令和 3 年 月)

目 次

第1章 スポーツ施設整備計画の概要

1 計画の背景と目的	1 p
2 今後の人口構成	2 p
3 今後の財政状況	4 p
4 計画の位置付け	6 p
5 計画の期間	6 p

第2章 スポーツ施設の現況評価

1 スポーツ施設一覧	7 p
2 スポーツ施設の現状と課題	8 p
3 基本情報の把握	13 p
4 施設の現況評価（1次評価）	14 p

第3章 スポーツ施設の環境評価

1 スポーツ施設に関する政策方針の検討	35 p
2 スポーツ施設の基本方針に関する検討（2次評価）	36 p

第4章 個別施設計画の策定

1 適用可能な手法の検討	39 p
2 個別施設計画の取りまとめ	44 p

第5章 計画の実施方法

1 フォローアップの実施方針	47 p
2 推進・取組体制	47 p
3 情報の見える化	47 p
4 情報共有・合意形成の推進	48 p

第1章 スポーツ施設整備計画の概要

1 計画の背景と目的

(1) 計画の背景

本市は、昭和41年に全国で初めてスポーツ都市宣言を行い、「スポーツを通じて健康でたくましい心と体をつくり、豊かで明るい都市を築く」という理念のもとに、これまでスポーツの普及振興に力を注いできました。

当時、本市は、高度経済成長期とともに港の建設を機に人口が急増し、拡大する行政需要に合わせ、学校や文化・スポーツ施設、公営住宅など都市基盤整備を行ってきましたが、現在、これら施設の更新時期を一斉に迎え、安全面及び機能面を確保するための老朽化対策が大きな課題となっています。

国においては、昭和36年に施行されたスポーツ振興法の「スポーツは、世界共通の人類の文化である」を理念のもとに、スポーツ人口の増加及びスポーツ活動の発展など、スポーツを取り巻く社会情勢の変化やスポーツ立国の実現、またスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成23年に「スポーツ基本法」を制定しました。

スポーツ基本法第12条では、スポーツ施設の整備について、「国民が身近にスポーツに親しむことができるようにするとともに、競技水準の向上を図ることができるよう、スポーツ施設の整備、利用者の需要に応じたスポーツ施設の運用の改善等について、必要な施策を講ずるよう努めなければならない」と規定しています。

一方、我が国のスポーツ施設は、老朽化と財政状況の悪化の中で、今後、安全な施設を提供し続けることが困難になると想定され、スポーツ基本法に定められた理念を実現するためには、スポーツ施設に関する課題へ計画的に対応していく必要があるとしております。

このようなことから、スポーツ庁では、平成30年に地方公共団体が安全なスポーツ施設を持続的に提供し、もって国民が身近にスポーツに親しむことのできる環境を整備できるように、「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン（以下「ガイドライン」という。）」を策定し、スポーツ施設の整備計画を策定するよう促しています。

(2) 計画の目的

本市では、全国に先駆けてスポーツ都市宣言を行い、4つの柱「市民すべてがスポーツを楽しみましょう」、「力をあわせてスポーツのできる場をつくりましょう」、「次代をにやう青少年のため、地域にも職場にもスポーツの機会をつくりましょう」、「世界に活躍できる市民を育てて広く世界の人と手をつなぎましょう」の目標とともに、平成28年に策定した『活気みなぎる「スポーツ都市」とまこまい ～スポーツを愛し、市民が活気あふれるまちへ～』をテーマとす

る「苫小牧市スポーツ推進計画」のもと、施策を推進し、近年の健康志向の高まりやスポーツ施設の整備、また、スポーツ大会・合宿誘致活動の強化などから、スポーツ施設利用者数が増加傾向にあるとともに、地域経済の活性化にも大きな効果が生まれています。

しかし、本市のスポーツ施設は、昭和40年代に建設した総合体育館やハイランドスポーツセンターを始め、多くの施設が建築から30年以上が経過し、施設の老朽化対策が必要となっています。

施設整備には、多額の費用が要する一方で、人口減少・少子高齢化社会を迎え、今後、市税収入が減少し、財政状況が悪化することが見込まれています。スポーツ施設整備を進めるにあたっては、今後の財政状況や人口動態、利用状況等を長期的な視点から見据え、維持管理及び更新等に係る総合的なコスト縮減とともに予算の平準化を図られるように計画的な整備が必要になります。

このようなことから、本市では、これまでに策定した「苫小牧市公共施設白書」や「苫小牧市公共施設適正配置基本計画」、「苫小牧市公共施設等総合管理計画」をもとに「苫小牧市スポーツ施設整備計画（以下「本計画」という。）」を策定し、「スポーツに親しむ場の確保」及び「スポーツを通じた経済・地域の活性化」に向けた取り組みを推進していきます。

2 今後の人口構成

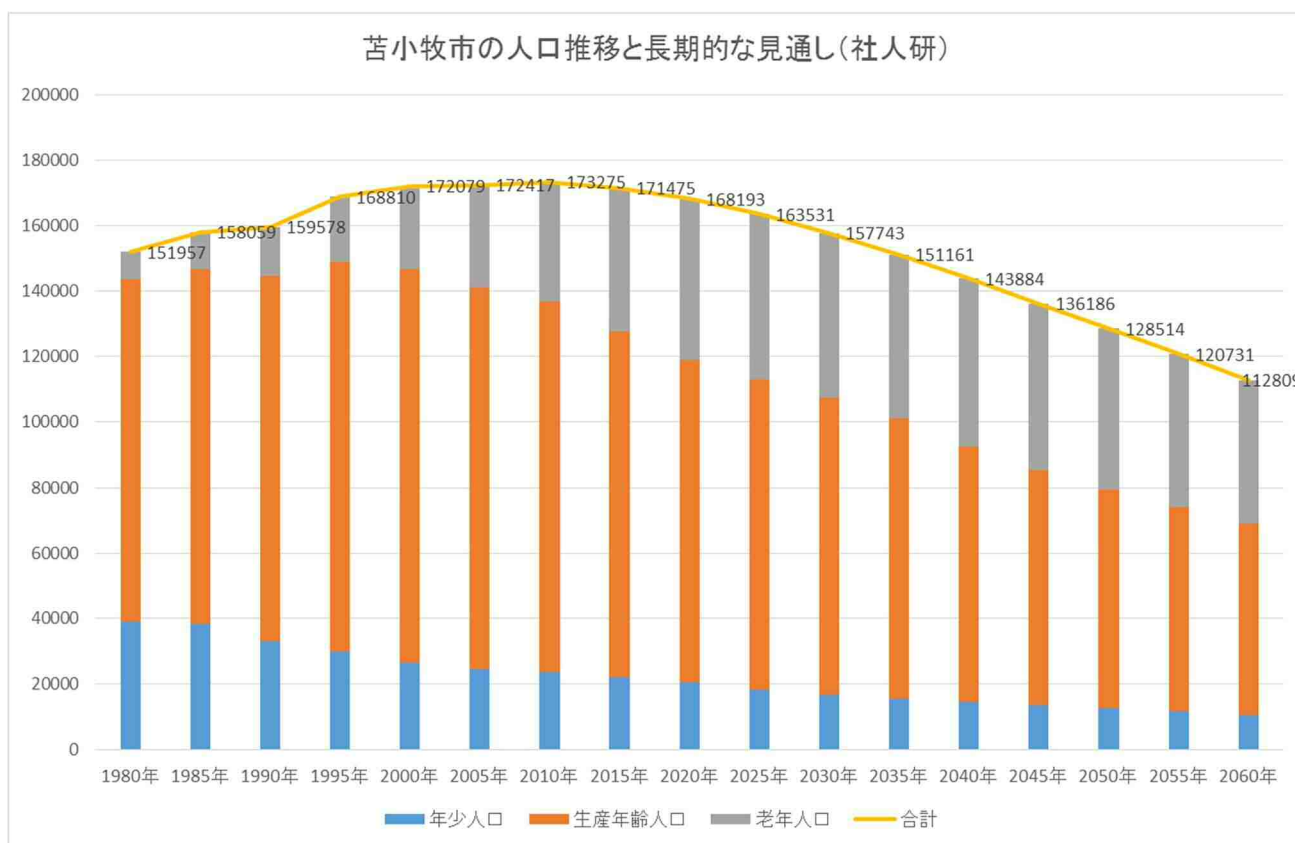
(1) 人口ビジョン

国では、少子高齢化の進展への確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び魅力ある就業の機会の創出を一体的に推進し、総合的かつ計画的に施策を実施することを目的に「まち・ひと・しごと創成法」を2014年（平成26年）11月に制定しました。

これを受けて本市では、産学官金労（言）、女性、若者などの幅広い分野の協力・参画を得て、「苫小牧市総合戦略推進会議」を立ち上げ、本市における課題や現状を踏まえて「苫小牧市人口ビジョン及び総合戦略（以下「人口ビジョン」という。）」を、2016年（平成28年）2月に策定しています。

この人口ビジョンでは、2010年をピークに人口が減少しており、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計によると、2040年には約14.4万人、2060年には約11.3万人まで減少し、年齢区分別にみると、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15～64歳）が減少し、老年人口（65歳以上）は増加していくと見込まれています。

これは、将来的に地域を支える年齢層の人口が減少していき、地域経済に深刻な影響を与えることとなります。



(2) 目指すべき将来展望

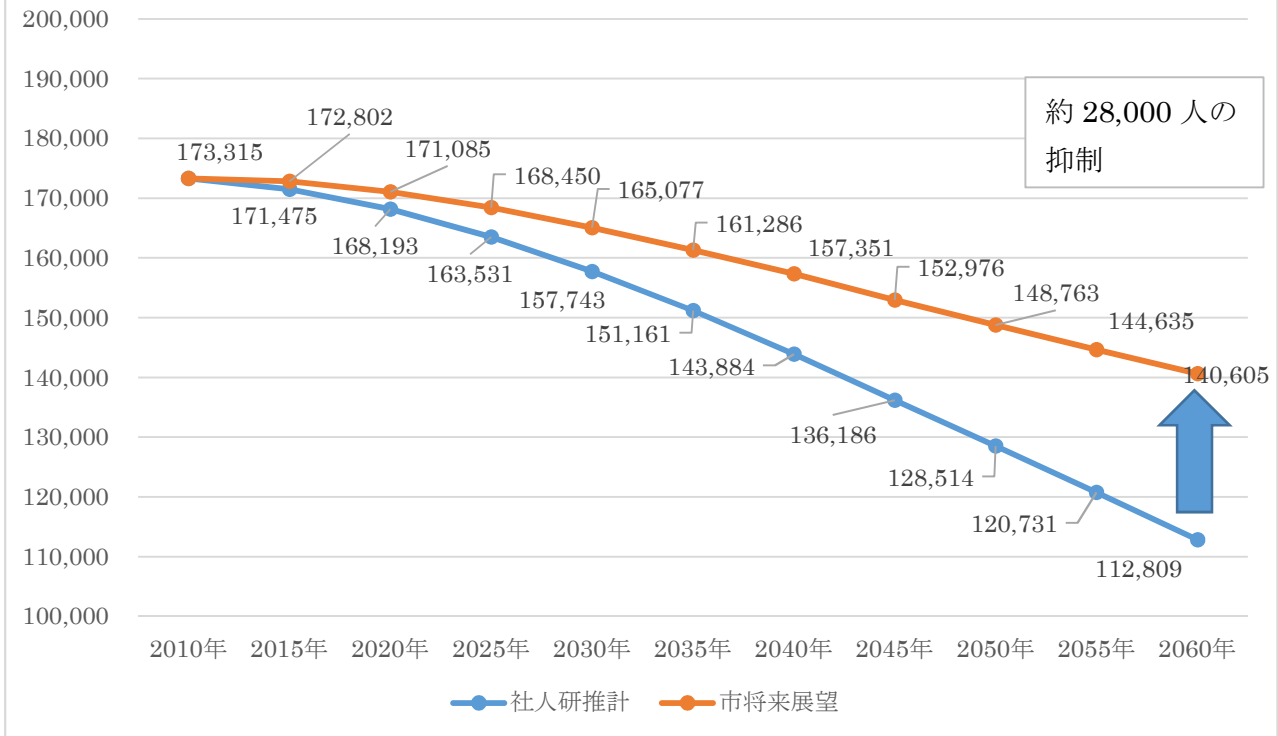
本市は、現状分析を行うとともに課題を踏まえた今後の目指すべき将来の方向性を示し、以下のとおり取り組んでいくことにしています。

また、本市が将来にわたり、まちとしての活力を維持し、苦小牧市総合計画で掲げる「人間環境都市」を実現していくためには、国の長期ビジョン及び本市の人口動向分析の調査結果等を考慮し、苦小牧市が将来目指すべき人口の将来展望として、2040年の時点で約15.7万人、2060年の時点で約14万人の人口維持を目指しています。

【目指すべき将来の方向性】

- ① 市内の雇用環境を維持・向上させるとともに、市内の住みやすさを改善し、札幌市をはじめとする若年層の転出を抑制する。
- ② 子育て・教育しやすい環境を整備するとともに、結婚・子育て世代（特に女性）の転入を増やし、合計特殊出生率を向上させる。
- ③ 生活環境を改善し、苦小牧市での暮らしのメリットをPRすることで、交流人口やUIJタウンをより増加させる。
- ④ 北海道内はもとより、国際的な競争力を持つ市として、企業誘致をはじめ、民間投資を呼び込むための誘致活動を充実させる。

社人研の推計と 苫小牧市の将来の展望



3 今後の財政状況

(1) 歳入の推移

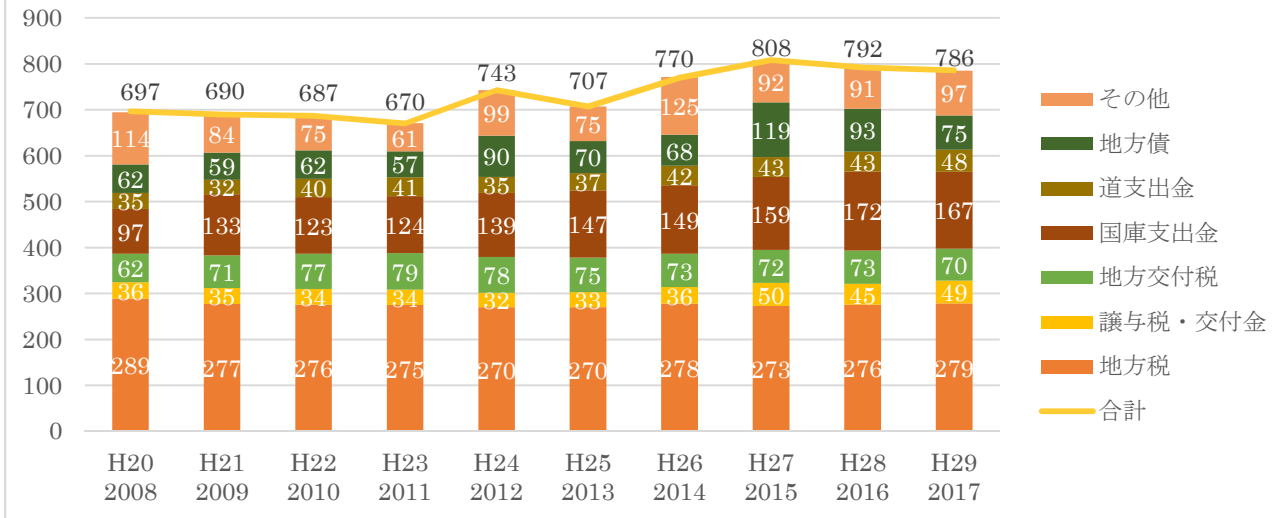
これまで財政健全化計画の取組から、財政基盤安定化計画へステップアップし、財政の健全性確保と財政基盤の強化に向けて取り組んできました。

今後においては、人口減少・少子高齢化が進行していく中、歳入については、安定的な市税収入を見込むことが難しくなっています。

歳入での根幹となる市税収入は、歳入総額の35%を占めており、個人市民税については、2017年度（平成29年度）で約279億円と増加傾向となっているものの、今後は生産年齢の人口の減少にともない、2027年度（令和9年度）には25億円減の約254億円まで減少すると見込まれています。

このような状況から、安定した税収及び税外収入の確保には、産業施策とともに人口減少抑制に向けた施策を積極的に取り組むことが、将来における本市の財政を展望する上で重要になります。

歳入の決算推移



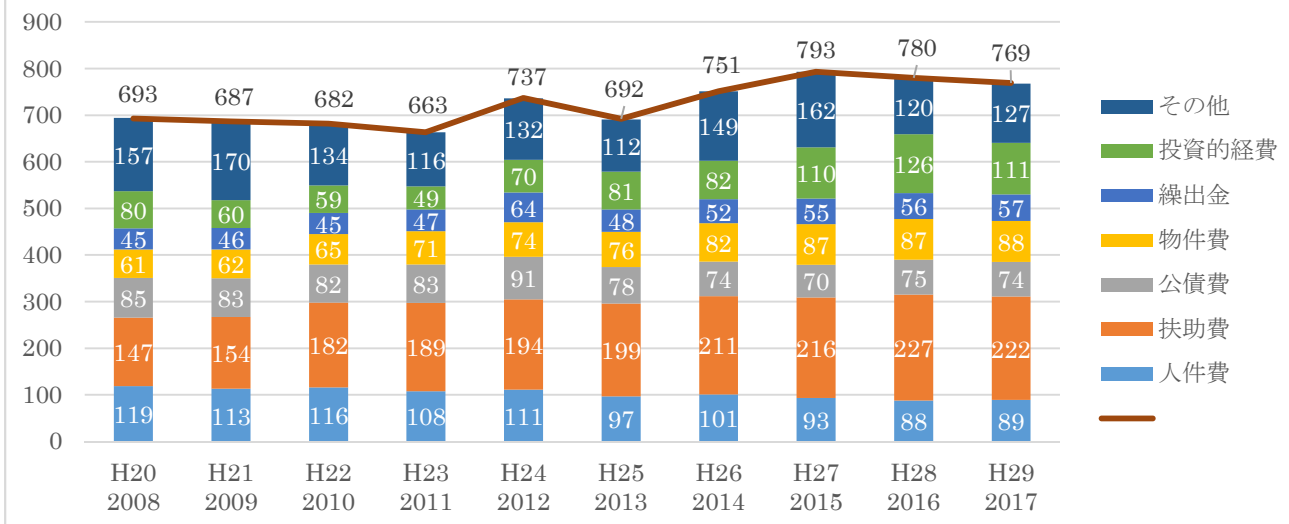
(2) 歳出の推移

歳出については、社会保障費や公共施設の老朽化にともなう費用の増大が見込まれ、財政が硬直化する厳しい状況となることが想定されます。

これまでも増加で推移してきた扶助費と介護保険及び後期高齢者医療に係わる繰出金の合計が、2017年度（平成29年度）で約279億円でしたが、さらに高齢化が進むことにより、2027年度（令和9年度）では43億円増の322億円になると見込んでいます。

将来にわたって、市民ニーズに応えながら必要な行政サービスを提供していくためには、財政の健全性が保たれていなければならないため、財政指標の管理による健全性の確保とともに、不測の事態の備えとなる基金の確保及び将来の地方債事業の影響について、シミュレーションを行いながら財政基盤の強化に努め、歳入規模に見合った歳出構造となるように努めることが必要になります。

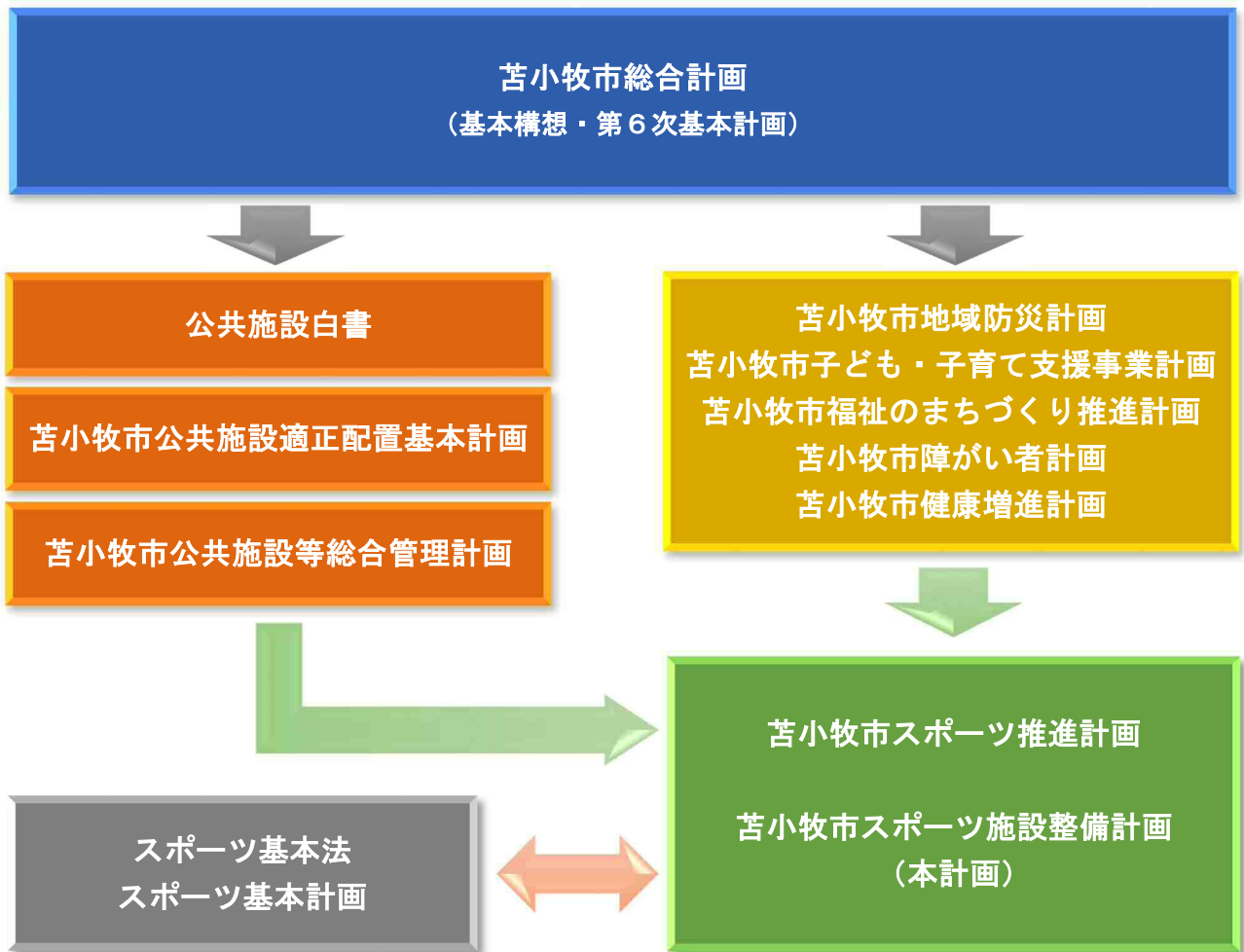
歳出の決算推移



4 計画の位置付け

本計画では、最上位計画である苦小牧市総合計画（基本構想・第6次基本計画）、財政基盤安定化計画、公共施設白書、苦小牧市公共施設適正配置基本計画（第1期基本計画）、苦小牧市公共施設等総合管理計画、苦小牧市スポーツ推進計画など各種計画をもとに整合性を図りながら策定します。

【本計画の位置付け】



5 計画の期間

本計画は、スポーツ施設の維持のみならず、改修等も含んだ中長期的な方針とするため、令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間の計画とします。

ただし、社会情勢や財政状況のほか、スポーツを取り巻く様々な環境の変化等がある場合には、必要に応じて見直しを行います。

第2章 スポーツ施設の現況評価

1 スポーツ施設一覧

本市のスポーツ施設は、17カ所設置しています。

No	種別	施設名	住所
1	体育館	総合体育館	末広町3丁目2番16号
2	体育館	川沿公園体育館	川沿町4丁目6番1号
3	体育館	日吉体育館	日吉町3丁目4番3号
4	プール	日新温水プール	日新町2丁目2番41号
5	プール	沼ノ端スポーツセンター	北栄町3丁目2番1号
6	スケートリンク	白鳥アリーナ	若草町2丁目4番1号
7	スケートリンク	沼ノ端スケートセンター	北栄町3丁目2番3号
8	スケートリンク	ときわスケートセンター	ときわ町3丁目8番5号
9	スケートリンク	新ときわスケートセンター	ときわ町3丁目8番1号
10	スケートリンク	ハイランドスポーツセンター	字高丘41番地
11	庭球場	緑ヶ丘公園庭球場	清水町3丁目3番26号
12	野球場	緑ヶ丘野球場	清水町3丁目3番26号
13	野球場	清水野球場	清水町4丁目1番1号
14	野球場	少年野球場	清水町3丁目3番26号
15	陸上競技場	緑ヶ丘公園陸上競技場	清水町3丁目3番26号
16	サッカー場	緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場	清水町3丁目3番26号
17	ゲートボール場	屋内ゲートボール場	矢代町2丁目1番12号
-	スケートリンク	ハイランドスポーツセンター旧屋内リンク(廃止)	字高丘41番地
-	宿泊所	旧ハイランドスポーツハウス(廃止)	字高丘26番地
-	宿泊所	旧サイクリングターミナル(廃止)	字高丘19番地1

スポーツ施設位置図

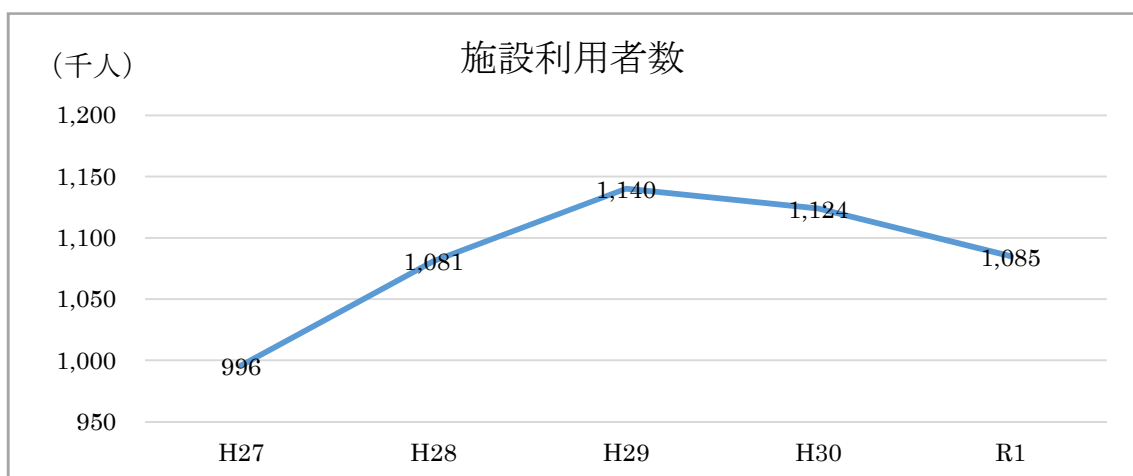
<全体図>

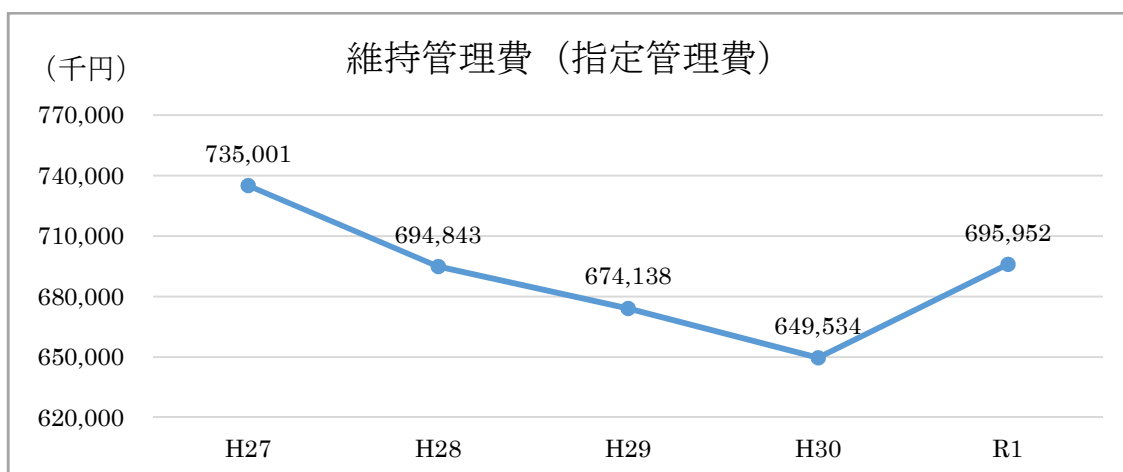
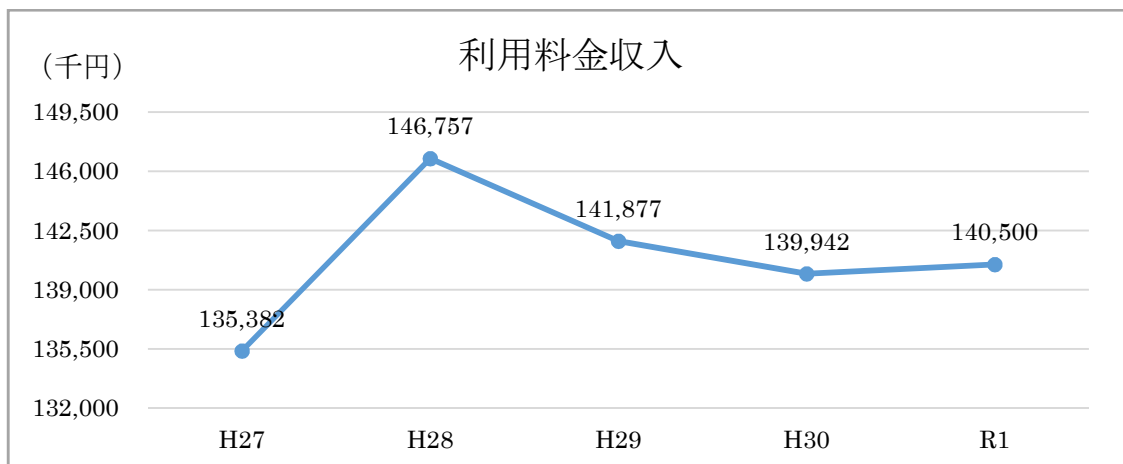


2 スポーツ施設の現状と課題

(1) 現状

スポーツ施設全体の利用者数、利用料金収入及び維持管理費（指定管理費）は、次のとおり推移しています。





(2) 課題

本市のスポーツ施設は、昭和40年代に建設した総合体育館やハイランドスポーツセンターなど、17施設のうち10施設が建築から30年以上経過しており、建物の補修や設備の更新など、老朽化対策に多額の費用が要することが課題となっています。

各スポーツ施設における過去10年間の整備状況 ※1件 1,000千円以上

No.	施設名	種別	設置年	整備の概要(カッコ内は費用 単位:千円)
1	総合体育館	体育館	S48	H23 アリーナ天井落下防止改修 (63,000) 執務室改修主体 (1,260) H24 柔道畳整備 (3,969) H25 外灯撤去及び建替工事 (1,575) H26 便所改修工事 (14,516) 弓道場防矢ネット取付工事 (1,190) H27 アーチェリー場の場囲い工事 (2,052) H28 柔道畳関西間 (5,888) 南側屋上防水改修工事 (45,998) 1階屋上防水改修工事 (47,542) アーチェリー場の場囲い設置工事 (1,496) ホワイエスカイライト防水工事 (3,200) H29 卓球台・体操用器具等整備 (8,953) H30 ストレージタンク蒸気コイル管板製作 (3,996) 天井他補修工事 (2,268) メインアリーナ床張替工事 (2,808) メインアリーナ床補修工事 (2,895) 天井断熱材撤去復旧工事 (1,512) R1 柔道畳整備 (3,715) 非常放送設備取替工事 (1,702)
2	川沿公園体育館	体育館	S63	H22 照明制御改修 (1,554) H28 防犯カメラ設置工事 (1,070) H30 真空式ボイラー取替工事 (4,860) R1 空手用マット (2,838) 受電設備改修工事 (2,310)
3	日吉体育館	体育館	S54	H22 屋根板金改修 (8,652) H24 バスケットゴール修繕 (1,460) H26 非常扉取替工事 (1,237)
4	日新温水プール	プール	H2	H22 濾過材取替 (1,271) H25 パネルヒーター取替工事 (2,783) H26 暖房系配管更新工事 (3,564) 熱交換器改修工事 (1,072) H27 監視カメラ改修工事 (3,751) ウォータースライダー撤去等 (3,219) H28 タイル張替工事 (12,690) 暖房熱交換器取替工事 (5,454) H29 競泳用自動計時装置設置 (4,104) 中央監視装置更新 (7,625) 防犯カメラ設置工事 (1,988) H30 暖房用熱交換器取替工事 (5,379) R1 自動給水装置更新工事 (1,390)

No.	施設名	種別	設置年	整備の概要(カッコ内は費用 単位:千円)
5	沼ノ端 スポーツセンター	プール	H22	H23 ラボード等備品購入 (6,899) H24 脱水機、タイル購入 (1,607) H27 ボイラー改修工事 (2,052) H28 熱交換器取替工事 (2,484) H29 トレーニング機器等整備 (14,499) H30 空冷ヒートポンプ式熱回収外調機修繕 (1,188)
6	白鳥アリーナ	スケート リンク	H8	H22 ブラインポンプ改修 (3,507) H23 ブラインポンプ改修 (2,709) H24 整氷車バッテリー更新 (1,995) 整氷車ポンプモーター更新 (1,418) 冷凍機No2 更新 (25,830) H25 冷凍機No3 更新 (27,432) トレーニング機器更新 (2,888) H26 整氷車修繕 (6,329) トップライトシール工事 (6,524) 冷凍機No1更新 (51,786) H27 蓄電池設備交換工事 (2,436) H28 洋式便所設置追加工事 (3,402) 洋式便所設置工事 (4,644) H29 整氷車部品交換 (3,360) H30 フェンス巾木取替工事 (4,796) 整氷車バッテリー購入 (2,214) 防犯カメラ設置工事 (2,160) R1 整氷車修繕 (5,311)
7	沼ノ端 スケートセンター	スケート リンク	H12	H23 冷凍圧縮機分解整備 (1,208) 冷凍機油圧ユニット改修 (1,292) H24 整氷車バッテリー購入 (1,995) 整氷車ポンプモーター購入 (1,418) 冷却塔ファン修繕 (2,499) H25 No2冷凍圧縮機修繕 (2,747) オーバーフェンス設置 (6,636) 整氷車購入 (21,683) H27 冷凍機プレート熱交換器整備工事 (19,980) H28 整氷車トラクションモーター交換 (3,930) H29 整氷車用バッテリー交換 (2,214) 除湿機取替工事 (12,528) R1 整氷車修繕 (1,007) 冷却設備整備 (7,430) 冷却塔更新 (16,500) 便所修繕 (1,210)
8	ときわ スケートセンター	スケート リンク	S54	H22 整氷車修繕 (3,438) 屋上防水改修 (39,880) 玄関ドア改修 (1,890) H24 整氷車修繕 (1,500)
9	新ときわ スケートセンター	スケート リンク	H27	H27 強化ガラス飛散防止フィルム設置工事 (2,955) 防護ネット設置工事等 (1,149) 防音改修工事 (39,518) H29 防犯カメラ設置工事 (1,988) H30 整氷車バッテリー更新 (2,904)

No.	施設名	種別	設置年	整備の概要(カッコ内は費用 単位:千円)
10	ハイランド スポーツセンター	スケート リンク	S42	H23 冷凍機改修 (1,995) H25 給水管修繕工事 (1,260) 第7ブロックバルブ交換 (1,005) 防護マット購入 (12,600) H26 整氷車改造 (1,178) H28 屋内リンク冷凍機及び冷却塔整備業務 (36,180) 屋外リンク照明用高圧変圧器取替工事 (4,752) H29 屋根張替工事 (19,224) H30 擁壁撤去工事 (1,286) ターボ冷凍機 操作盤部品交換 (2,372) 整氷車修繕 (1,359) R1 整氷車修繕 (1,960) 重油地下タンク整備 (1,890)
11	緑ヶ丘公園 庭球場	庭球場	S58	H22 人工芝コート補修 (9,587) H25 人工芝コート補修 (2,175) H27 大規模改修工事 (161,087) H28 大規模改修工事 (260,422)
12	緑ヶ丘野球場	野球場	S61	H26 改修実施設計等 (15,401) H27 大規模改修工事 (511,959) H28 夜間照明設備設置工事 (116,856) ネットフェンスかさ上げ工事 (1,179) 芝補修工事 (1,210)
13	清水野球場	野球場	H16	
14	少年野球場	野球場	S62	H25 バックスクリーン、スコアボード塗装 (1,155) バックスクリーン取替 (1,103) スコアボード電気工事 (1,292)
15	緑ヶ丘公園 陸上競技場	陸上競技場	S56	H23 陸上競技場補修 (8,579) H24 大規模改修基本設計費等 (7,245) H25 大規模改修実施設計費等 (10,311) 大規模改修工事 (50,000) H26 大規模改修工事 (645,481) 競技用具整備 (32,179) H27 写真判定装置整備 (16,956) H28 水飲み場及び靴洗場設置工事 (2,355) 競技用電子機器保守点検 (1,078) トラクター購入 (4,858) H29 競技用電子機器保守点検 (1,078) 小学生用ハードル及びハードル運搬車 (2,830) R1 陸上競技場補修 (8,734) 競技用具更新 (3,278)
16	緑ヶ丘公園 サッカー・ ラグビー場	サッカー場	S63	H28 大規模改修工事基本実施設計 (1,188) 大規模改修工事実勢価格調査業務 (1,296) H29 大規模改修工事 (353,820) サッカーゴール等整備 (1,361) H30 大規模改修工事 (176,796) ガードフェンス賃貸借 (1,134) ラグビーゴール整備 (1,626) R1 照明設備工事 (70,400)

No.	施設名	種別	設置年	整備の概要(カッコ内は費用 単位:千円)
17	屋内 ゲートボール場	ゲート ボール場	H2	H27 コート不陸整正工事 (1,134)
-	ハイランドスポー ツセンター 旧屋内リンク	スケート リンク	S45	H23 年度廃止
-	旧ハイランド スポーツハウス	宿泊所	S42	H25 年度廃止
-	旧サイクリング ターミナル	宿泊所	S59	H26 年度廃止

3 基本情報の把握

スポーツ施設の基本情報を把握し、整理しました。耐震診断を実施している施設は、総合体育館と日吉体育館の2施設で、未実施の施設は、ときわスケートセンターやハイランドスポーツセンター（管理棟）など4施設となっています。

また、災害時には、総合体育館を救援物資総合センターとして位置付けし、川沿公園体育館及び日吉体育館については、救援物資補完センターに位置付けしています。

No.	施設名	施設種別	住所	構造	床面積 (㎡)	設置年	耐震 診断	地域防災計画上の 位置づけ
1	総合体育館	体育館	末広町	RC造 2F	7,876	S48	B	救援物資総合センター
2	川沿公園体育館	体育館	川沿町	RC造 1F	1,835	S63	-	救援物資補完センター
3	日吉体育館	体育館	日吉町	S造 1F	651	S54	B	救援物資補完センター
4	日新温水 プール	プール	日新町	RC造 2F	3,015	H2	-	
5	沼ノ端スポーツセ ンター	プール	北栄町	RC造 1F	3,098	H22	-	
6	白鳥アリーナ	スケート リンク	若草町	RC造 2F	9,898	H8	-	災害本部代替施設
7	沼ノ端スケートセ ンター	スケート リンク	北栄町	S造 1F	3,181	H12	-	
8	ときわスケートセ ンター	スケート リンク	ときわ町	RC造 2F	3,453	S54	未実施	
9	新ときわスケート センター	スケート リンク	ときわ町	S造 1F	3,297	H26	-	
10	ハイランドスポー ツセンター	スケート リンク	字高丘	S造 2F	管理棟 4,265 観覧席 2,048	S42 H17	管理棟 未実施	

No.	施設名	施設種別	住所	構造	床面積 (㎡)	設置年	耐震 診断	地域防災計画上の 位置づけ
11	緑ヶ丘公園 庭球場	庭球場	清水町	S造 2F	290	S58	-	
12	緑ヶ丘野球場	野球場	清水町	RC造 2F	1,056	S61	-	
13	清水野球場	野球場	清水町	-	-	H16	-	
14	少年野球場	野球場	清水町	RC造 1F	25	S62	-	
15	緑ヶ丘公園 陸上競技場	陸上 競技場	清水町	S造 1F	695	S56 改修 H27	-	
16	緑ヶ丘公園 サッカー・ラグビ ー場	サッカー 場	清水町	RC造 2F	276	S63 改修 H30	-	
17	屋内ゲートボール 場	ゲート ボール場	矢代町	S造 1F	1,182	H1	-	
-	ハイランドスポ ーツセンター 旧屋内リンク	スケート リンク	宇高丘	S造 1F	3,180	S45	未実施	
-	旧ハイランドスポ ーツハウス	宿泊所	宇高丘	RC造 3F	539	S44	未実施	
-	旧サイクリングタ ーミナル	宿泊所	宇高丘	RC造 2F	1,489	S59	-	

4 施設の現況評価（1次評価）

スポーツ施設について、安心・安全・快適性に係る施設の基礎情報を収集・整理し、その情報に基づき、個別施設の方向性及び整備手法を検討し、評価結果を取りまとめました。

（1）施設の現状情報の収集・整理

施設の現状を明らかにするため、「安全性・機能性」「耐震性」「経済性」の分析に資する基礎情報の収集・整理を行いました。

① 安全性・機能性に関する基礎情報

「安全性・機能性」の分析のための基礎情報を収集し、それぞれの項目について劣化状況（健全度状況）や対策の実施状況等について整理を行いました。

【状況把握のポイント】

- 安全性について、劣化状況が利用者や第三者の安全に与える影響を把握する。

- 機能性について、施設機能（性能）を維持するために必要となる空間性能、室内環境性能等の劣化や運用に関連する問題及びバリアフリー対策、省エネルギー対策、災害対策等の状況を把握する。
- 屋外スポーツ施設については、「公園施設長寿命化計画策定指針（案）【改訂版】」（2018年（平成30年）10月国土交通省都市局公園緑地・景観課）に準じ、各施設の健全度に関する基礎情報を把握する。
- スポーツ施設の安全対策について、スポーツの場を安全な状態で提供していくため、スポーツ施設に係る事故事例等を参考としながら、必要となる安全対策の実施状況を把握する。

「安全性・機能性」に関する基礎情報の収集項目

項 目		収集・整理項目
安全性	経過年数	・ 竣工年からの経過年数
	躯体の安全性	・ 躯体の劣化状況（剥離、ひび割れ等の損傷）
	外被性能	・ 屋根及び外壁等からの漏水の有無 ・ 屋根の劣化状況（勾配屋根材、防水材の劣化） ・ 外壁材の劣化状況（剥離・落下の危険性の有無）
機能性	空間性能（建築）	・ 室空間に関する問題（広さ、高さ等） ・ 内装の劣化状況（天井、壁、床、建具等）
	室内環境性能（電気・機械）	・ 室内環境（空調、衛生、音、光）の状況 ・ 附属設備（トイレ、シャワー、更衣室等）の整備状況 ・ 設備機器、配管等の劣化状況 ・ 運用に関する問題（設備の管理、運転等）
	その他	・ バリアフリー対応の状況 ・ 省エネルギー対策の状況 ・ 災害対策の状況（避難スペース、備蓄、防災設備、トイレ、シャワー、更衣室等）
屋外スポーツ施設の状況		・ 舗装の健全度（クレイ系、芝生、人工芝等） ・ 附属施設の健全度（フェンス、スコアボード、ダグアウト、観覧席、外周壁等） ・ 附属設備の健全度（照明、散水、排水等の設備）

スポーツ施設の安全対策	施設の安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内スポーツフロアの状況（すべり転倒、床板割れ、床金物の緩み等） ・水泳プールの安全管理（飛び込み、溺水、排水口吸込事故等） ・屋外スポーツコート（平たん性の維持） ・AED等の設置状況
	用具・器具の安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・落下防止対策の状況（吊り下げ、壁面固定バスケットゴール等） ・移動防止対策の状況（サッカーゴール等）

② 経済性に関する基礎情報

「経済性」の分析のための基礎情報として、コスト（更新・修繕費、運営維持管理費、光熱水費・通信費）及び利用料金等の収入に関する情報の収集・整理を行いました。

【状況把握のポイント】

- 更新・修繕費について、公共施設等総合管理計画の策定に用いられる公共施設更新費用試算ソフト（総務省）を用いて算出する。
- 運営維持管理費、光熱水費・通信費、使用料等の収入に関する情報は、施設の所管部局で管理しているデータを整理する。

「経済性」に関する基礎情報の収集項目

項目	収集・整理項目
更新・修繕費	今後の改修や建替えに係るコスト
運営維持管理費	指定管理費：委託料（清掃、設備管理、警備、法定点検等）
光熱水費・通信費	電気、ガス、上下水道、通信
収入	スポーツ施設の利用料金

③ 耐震性に関する基礎情報

スポーツ施設のうち建築物について、耐震性を把握し整理を行いました。

【状況把握のポイント】

- 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」により、不特定多数の者が利用する1981年（昭和56年）以前の旧耐震基準で設計された建物のうち、特定の用途や一定規模以上のものを「特定建築物」とする。耐震性の確認と改修に関して努力義務が規定されているため、該当する建築物であるかを把握する。

- 耐震診断を実施している建築物について、その結果を把握し、耐震改修が必要と診断されている場合は、その後の耐震改修の実施の有無について把握する。

「耐震性」に関する基礎情報の収集項目

項 目	収集・整理項目
適合する耐震基準	・ 1981年以前の耐震基準（旧耐震基準）
耐震診断	・ 旧耐震基準による建築物の診断実施の有無 ・ 耐震改修の必要性の有無
耐震改修	・ 耐震改修の実施の有無

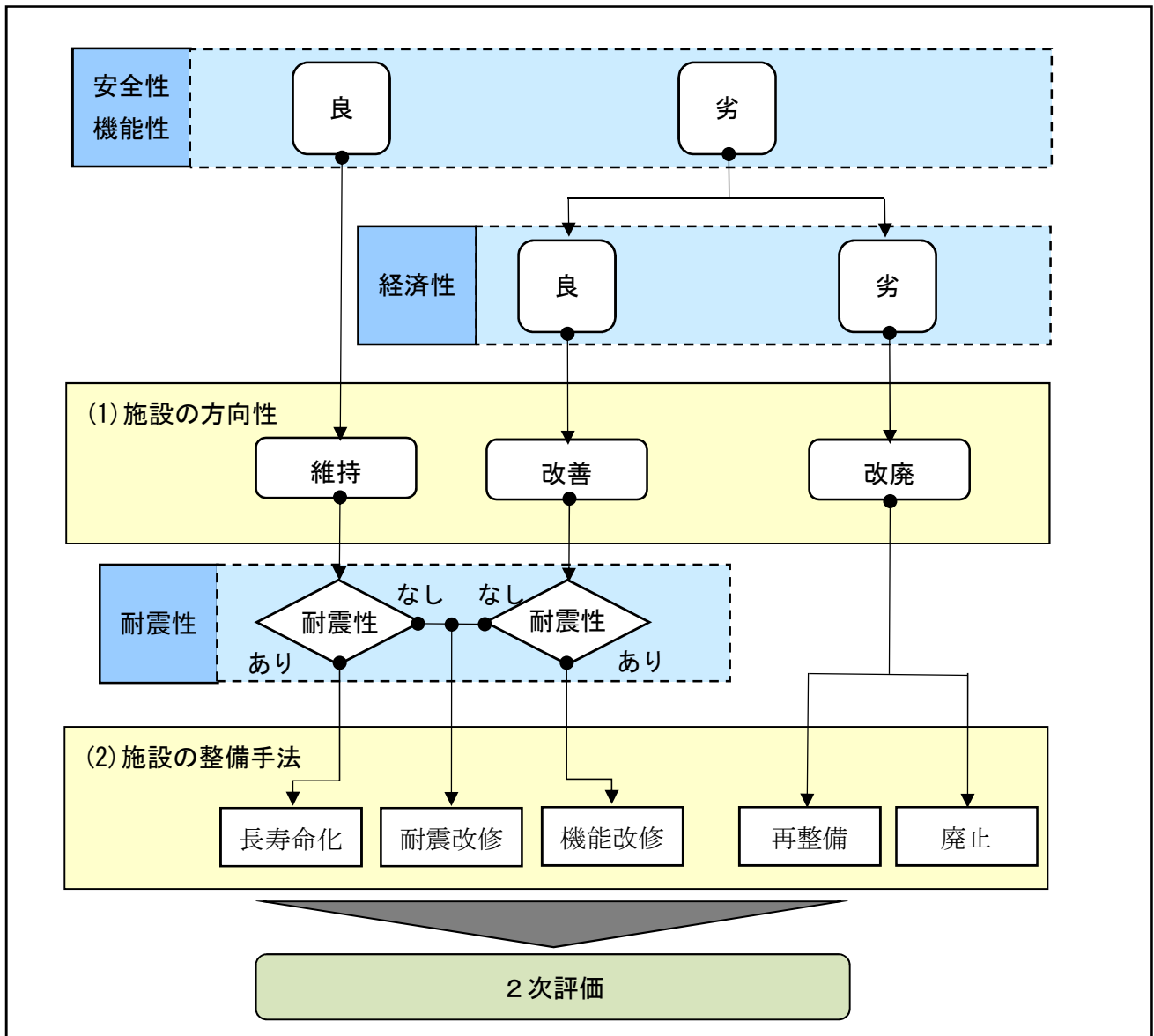
(2) 施設の現状情報に基づく個別施設の方向性に関する検討【1次評価】

収集した情報をもとに施設の現状を評価し、その評価結果から個々のスポーツ施設の「方向性」及び「整備手法」の検討を行いました。

【検討のポイント】

- 個別施設の方向性の検討【1次評価】は、スポーツ施設の安全・安心な利用に係る最小限の基礎情報をもとに、施設の方向性等を簡易的に検討する。

個別施設の方向性の検討（1次評価のフローチャート）



① 施設の方向性の検討

施設の現地調査を実施し、劣化具合及び収集した基礎情報をもとに施設の方向性（「維持」「改善」「改廃」）の検討を行いました。

【「安全性」・「機能性」の評価】

- 表1の考え方にに基づき「良」「劣」の評価を行う。
- 表2の考え方にに基づき、健全度状況について「A・B・C・D」の4段階評価を行う。

【表1】「安全性・機能性」の評価の考え方

評価基準	評価
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体的に劣化、不具合等の事象が確認されない。 ✓ 部分的な劣化、不具合等の事象が確認されるが緊急性は低い。 ✓ 法定点検での是正報告がない、又は是正事項が既に改善されている。 ✓ スポーツ施設の安全対策がなされている。 	良
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体的な劣化、不具合等、若しくは著しい劣化、不具合等の事象が確認され、全面的な補修若しくは改修が必要である。 ✓ 劣化、不具合等の事象により、重大な事故、施設の利用制限、又は緊急に補修若しくは改修が必要である。 ✓ 法定点検での是正報告があり、是正が長期間放置されている、若しくは重大な事故、施設の利用制限が想定される。 ✓ 重大な事故の恐れがあり、安全に関する対策が実施されていない。 	劣

【表2】4段階評価基準

評価基準	指標
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体的に健全である。 ✓ 緊急の修繕の必要がなく、日常の維持保全で管理できるもの。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体的に健全だが、部分的な劣化が進行している。 ✓ 緊急の補修の必要性はないが、維持保全での管理の中で、劣化部分について定期的な観察が必要なもの。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体的に劣化が進行している。 ✓ 現時点では重大な事故にはつながらないが、利用し続けるためには部分的な補修、若しくは更新が必要なもの。 	C
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体的に顕著な劣化がある。 ✓ 重大な事故につながる恐れがあり、施設の利用禁止あるいは、緊急な補修、若しくは更新が必要とされる。 	D

【「経済性」の評価】

- 「安全性・機能性」の評価において、「劣」と評価された施設について評価を行う。
- 「改善コスト」及び「維持管理コスト」については、公共施設更新費用試算ソフト（総務省）を用いて試算し評価を行い、評価を行えない建物及び屋外スポーツ施設については、現況評価、竣工年により評価を行う。
- 表4「改善コスト・維持管理コストの評価」及び表5「収入」の4段階評価を行い、表3の考え方に基づいた「良」「劣」の評価を行う。

【表3】「経済性」評価の評価基準

評価基準	評価
✓ 改善コスト及び維持管理コストの発生が標準よりも少ない。 ✓ 収入が多く、今後も施設利用が見込まれる。	良
✓ 改善コスト及び維持管理コストが多く、収入も標準よりも少ない。 ✓ 相対的、若しくは目標値に対して、著しく状況が悪い。	劣

【表4】「改善コスト」、「維持管理コスト」の評価基準

評価基準（公共施設更新費用試算ソフトによる評価）	評価基準
✓ 10年以上大規模改修が必要とならない施設	A
✓ 10年以内に大規模改修が必要となる施設	B
✓ 築31年以上で10年以内に大規模改修が必要となる施設	C
✓ 10年以内に建替えが必要となる施設	D

【表5】「収入」の評価基準

評価基準（利用料金収入、利用者数の推移）	評価基準
✓ 増加傾向にあり、今後も増加が見込まれる	A
✓ 年によりばらつきはあるが、最近増加傾向または増減の幅が少ない	B
✓ 年によりばらつきはあるが、最近減少傾向にある	C
✓ 年々減少傾向にあり、今後も増加は見込まれない	D

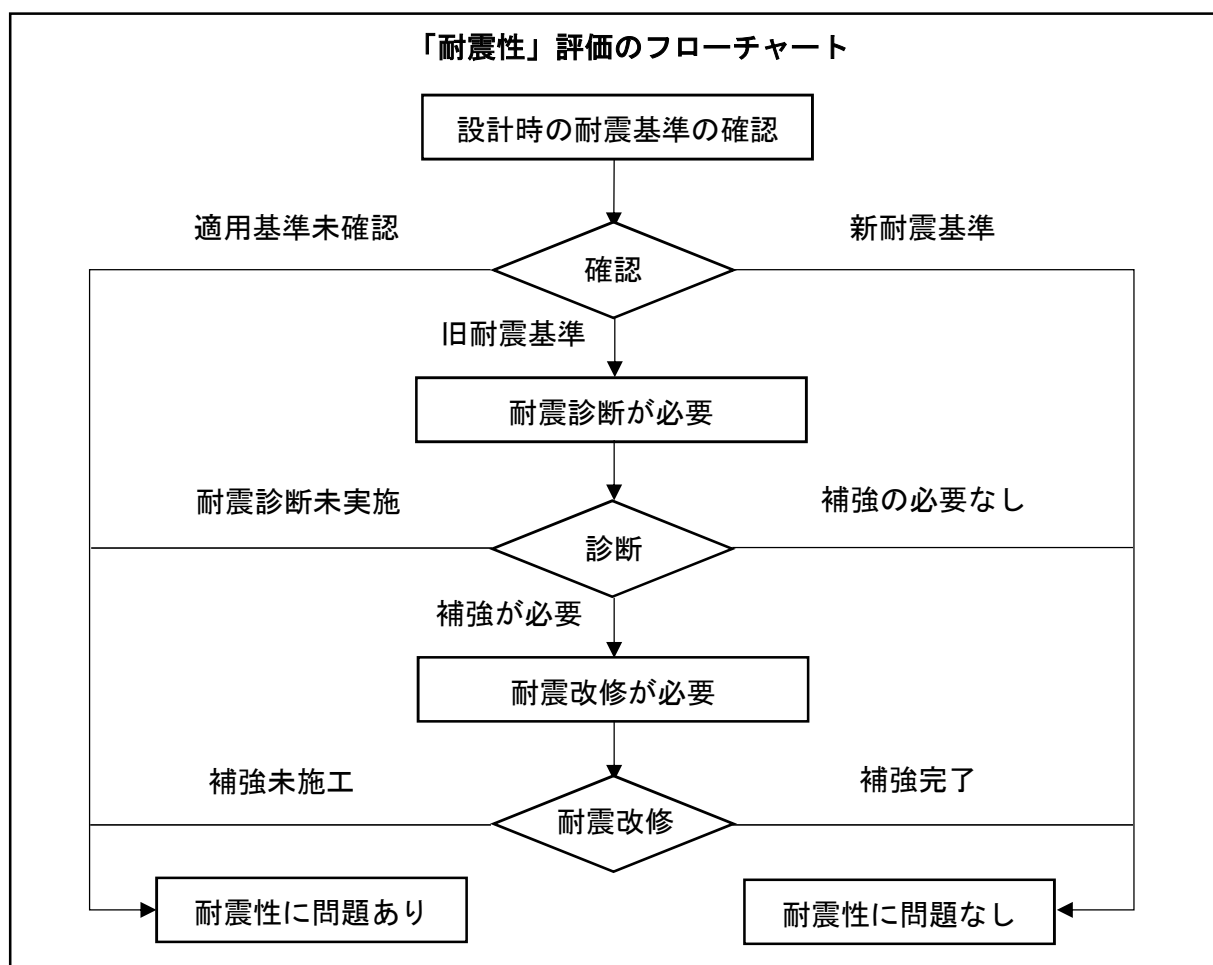
② 施設の整備手法の検討

施設の方向性が「維持」又は「改善」となった施設（建築物）は、「耐震性」の評価を行い、施設の整備手法について検討を行いました。

【「耐震性」の評価】

- 収集した基本情報をもとに評価を行う。
- 旧耐震基準（1981年（昭和56年）6月1日以前）に設計された建築物は、耐震診断の実施が必要であるため、その実施の有無及び耐震診断結果を確認する。
- 新耐震基準により設計された建築物は、「耐震性に問題なし」と評価する。
- 耐震診断の実施が必要であるが実施していない建築物は、現時点では判断できないため、「耐震性に問題あり」と評価する。
- 耐震診断を実施している建築物のうち、「耐震改修の必要性がない」と診断された建築物は、「耐震性に問題なし」と評価する。

- 耐震診断を実施している建築物のうち、「耐震改修の必要性があり」と診断され、耐震改修が未実施の建築物は、「耐震性に問題あり」と評価する。



【施設の整備手法】

- 施設の方向性が「維持」となった施設は、「耐震性」の評価を実施し、耐震性に問題がある場合は「耐震改修」を実施する。耐震性に問題がない場合は、長寿命化を図りながら計画的に保全を実施し、施設を適切に維持する。
- 施設の方向性が「改善」となった施設は、「耐震性」の評価を実施し、耐震性に問題がある場合は「耐震改修」を実施する。耐震性に問題がない場合は、「機能改修」を実施する。なお、「耐震改修」と合わせて、機能改修を実施することが効率的である場合は、同時に実施する。
- 屋外施設等の建築物として取り扱われない施設は、「耐震化」の評価は実施しない。施設の方向性で「維持」となった施設の整備手法は「長寿命化」とし「改善」となった施設の整備手法は「機能改修」とする。
- 施設の方向性が「改廃」となった施設は、「再整備」又は「廃止」となるが、この判断については、「スポーツ施設の基本方針に関する検討【2次評価】」を実施する。ただし、明らか

に劣化が進行し、評価が芳しくない施設や既に方針を示している施設に関しては、この評価で判断する。

施設の方向性及び整備手法

方向性	整備手法	内容
維持	長寿命化	計画的に改修等の保全を行い、現在の施設をより長く使用する。
改善	機能改修	経年劣化への対応を目的に改修する。
	耐震改修	地震に対する安全性向上を目的に改修する。
改廃	再整備	現状の施設を解体し、現地若しくは別の敷地に新たに施設を整備する。
	廃止	施設を解体・撤去する。

③ 評価結果のとりまとめ

個別施設の方向性及び整備手法の評価をとりまとめた結果は、表6「施設の方向性及び整備手法の結果概要」及び表7「スポーツ施設個別評価シート」のとおりです。

【表6】施設の方向性及び整備手法の結果概要（個別施設一覧）

No.	施設名	施設種別	該当地域	安全性・機能性						経済性				耐震性				施設の方向性	整備手法
				安全性	機能性	屋外施設	安全対策	その他	評価	改善コスト	維持管理コスト	収入	評価	設置年	耐震基準	耐震診断	評価		
1	総合体育館	体育館	中央地区	C	C	A	B		劣	C	C	B	良	S48	旧	B	問題あり	改廃	再整備
2	川沿公園体育館	体育館	西地区	B	C	-	B		良					S63	新	-	問題なし	維持	長寿命化
3	日吉体育館	体育館	西地区	C	C	-	B		劣	C	C	B	良	S54	旧	B	問題あり	改善	機能改修
4	日新温水プール	プール	西地区	B	B	-	B		良					H2	新	-	問題なし	維持	長寿命化
5	沼ノ端スポーツセンター	プール 体育館	東地区	A	A	-	A		良					H22	新	-	問題なし	維持	長寿命化
6	白鳥アリーナ	スケートリンク	中央地区	B	B	-	A		良					H8	新	-	問題なし	維持	長寿命化
7	沼ノ端スケートセンター	スケートリンク	東地区	A	B	-	A		良					H12	新	-	問題なし	維持	長寿命化
8	ときわスケートセンター	スケートリンク	西地区	C	C	-	B	施設機能停止時点で廃止	劣	C	C	B	良	S54	旧	未実施	問題あり	改廃	廃止
9	新ときわスケートセンター	スケートリンク	西地区	A	A	-	A		良					H26	新	-	問題なし	維持	長寿命化
10	ハイランドスポーツセンター	スケートリンク	中央地区	C	C	C	C		劣	D	D	B	劣	S42 H17	旧 新	未実施	問題あり	改廃	再整備
11	緑ヶ丘公園庭球場	庭球場	中央地区	B	B	B	A	H28改修	良					S58	新	-	問題なし	維持	長寿命化
12	緑ヶ丘野球場	野球場	中央地区	B	A	A	A	H27改修	良					S61	新	-	問題なし	維持	長寿命化
13	清水野球場	野球場	中央地区	C	C	C	B	民間事業者所有	劣	B	B	C	良	H16	-	-	対象外	改善	機能改修
14	少年野球場	野球場	中央地区	B	B	C	C		劣	C	C	C	劣	S62	新	-	問題なし	改善	機能改修

【表6】施設の方向性及び整備手法の結果概要（個別施設一覧）

No.	施設名	施設種別	該当地域	安全性・機能性						経済性				耐震性				施設の方向性	整備手法
				安全性	機能性	屋外施設	安全対策	その他	評価	改善コスト	維持管理コスト	収入	評価	設置年	耐震基準	耐震診断	評価		
15	緑ヶ丘公園陸上競技場	陸上競技場	中央地区	A	A	A	A		良					H26	新	-	問題なし	維持	長寿命化
16	緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場	サッカーラグビー場	中央地区	A	B	A	A	H30改修	良					S63	新	-	問題なし	維持	長寿命化
17	屋内ゲートボール場	ゲートボール場	中央地区	B	B	-	B		良					H1	新	-	問題なし	維持	長寿命化
-	ハイランドスポーツセンター（屋内リンク）	スケートリンク	中央地区	D	D	-	D	H23廃止	劣	-	-	-	-	S45	旧	未実施	問題あり	改廃	廃止
-	旧ハイランドスポーツハウス	宿泊所	中央地区	D	D	-	-	H26廃止	劣	-	-	-	-	S44	旧	未実施	問題あり	改廃	廃止
-	旧サイクリングターミナル	宿泊所	中央地区	C	D	-	-	H27廃止	劣	-	-	-	-	S59	新	-	問題なし	改廃	廃止

【表7】スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.1		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	総合体育館		住所	末広町3丁目2-16			
	施設種別	体育館	屋内外別	屋内	該当地域	中央地区		
	設置年	S48	構造	RC造	階層	2F		
	敷地面積	41,670㎡	延床面積	7,876㎡	運営形態	指定管理		
競技規模	主競技場:2,448㎡(バスケットボール3面、バレーボール3面、バドミントン12面、卓球20台)、練習室(柔道、剣道、卓球)、トレーニング室、弓道場、アーチェリー場							
その他	観客席	固定 1,340	照明設備	有	駐車場	191台		
		移動 4,896	防災機能	救援物資管理センター				
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	C	劣	経済性	改善コスト	C	良	
	機能性	C			維持管理コスト	C		
	屋外スポーツ施設の状況	A			収入	B		
	スポーツ施設の安全対策	B		耐震性	耐震基準	旧耐震	問題あり	
	その他		耐震診断の実施		B			
施設の方向性		改廃		整備手法		再整備		
2次評価の必要性				有				

管理番号	No.2		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	川沿公園体育館		住所	川沿町4丁目6-1			
	施設種別	体育館	屋内外別	屋内	該当地域	西地区		
	設置年	S63	構造	RC造	階層	1F		
	敷地面積	28,994㎡	延床面積	1,835㎡	運営形態	指定管理		
競技規模	1,156㎡(バスケットボール2面、バレーボール2面、バドミントン8面、卓球16台、テニス2面)、トレーニング室							
その他	観客席		照明設備	有	駐車場	80台		
			防災機能	救援物資補完センター				
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	B	良	経済性	改善コスト			
	機能性	C			維持管理コスト			
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入			
	スポーツ施設の安全対策	B		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし	
	その他		耐震診断の実施		-			
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化		
2次評価の必要性				無				



スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.3		基本情報				現況写真
施設情報	施設名称	日吉体育館		住所	日吉町3丁目4-3		
	施設種別	体育館	屋内外別	屋内	該当地域	西地区	
	設置年	S54	構造	S造	階層	1F	
	敷地面積	2,700㎡	延床面積	651㎡	運営形態	指定管理	
競技規模	544㎡(バスケットボール1面、バレーボール1面、バドミントン3面、卓球10台)						
その他	観客席		照明設備	有	駐車場	40台	
			防災機能	救援物資補完センター			
施設の現況評価(1次評価)							
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定
安全性 機能性	安全性	C	劣	経済性	改善コスト	C	良
	機能性	C			維持管理コスト	C	
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入	B	
	スポーツ施設の安全対策	B		耐震性	耐震基準	旧耐震	問題あり
	その他				耐震診断の実施	B	
施設の方向性		改善		整備手法		機能改修	
2次評価の必要性				有			


管理番号	No.4		基本情報 (ネーミングライツ:アプロス日新温水プール)				現況写真
施設情報	施設名称	日新温水プール		住所	日新町2丁目2-41		
	施設種別	プール	屋内外別	屋内	該当地域	西地区	
	設置年	H2	構造	RC造	階層	2F	
	敷地面積	10,029㎡	延床面積	3,015㎡	運営形態	指定管理	
競技規模	日本水泳連盟公認プール 25m、8コース、水深1.2m トレーニング室、ランニングデッキ						
その他	観客席		照明設備	有	駐車場	117台	
			防災機能				
施設の現況評価(1次評価)							
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定
安全性 機能性	安全性	B	良	経済性	改善コスト		
	機能性	B			維持管理コスト		
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入		
	スポーツ施設の安全対策	B		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし
	その他				耐震診断の実施	-	
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化	
2次評価の必要性				無			

スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.5		基本情報 (ネーミングライツ:アブロス沼ノ端スポーツセンター)				現況写真
施設情報	施設名称	沼ノ端スポーツセンター		住所	北栄町 3 丁目 2-1		
	施設種別	プール	屋内外別	屋内	該当地域	東地区	
	設置年	H22	構造	RC 造	階層	1F	
	敷地面積	㎡	延床面積	3,098 ㎡	運営形態	指定管理	
競技規模	プール 25m、8 コース、水深 1.2m トレーニング室 体育館 405 ㎡(バドミントン 2 面)						
その他	観客席		照明設備	有	駐車場	74 台	
			防災機能				
施設の現況評価 (1 次評価)							
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定
安全性 機能性	安全性	A	良	経済性	改善コスト		問題なし
	機能性	A			維持管理コスト		
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入		
	スポーツ施設の安全対策	A		耐震性	耐震基準	新耐震	
	その他		耐震診断の実施		-		
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化	
2 次評価の必要性				無			

管理番号	No.6		基本情報 (ネーミングライツ:白鳥王子アイスアリーナ)				現況写真
施設情報	施設名称	白鳥アリーナ		住所	若草町 2 丁目 4-1		
	施設種別	スケートリンク	屋内外別	屋内	該当地域	中央地区	
	設置年	H8	構造	RC 造	階層	2F	
	敷地面積	26,198 ㎡	延床面積	9,898 ㎡	運営形態	指定管理	
競技規模	スケートリンク (60m × 30m) トレーニング室						
その他	観客席	固定 3,015	照明設備	有	駐車場	126 台	
		立見 1,000	防災機能	災害本部代替施設			
施設の現況評価 (1 次評価)							
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定
安全性 機能性	安全性	B	良	経済性	改善コスト		問題なし
	機能性	B			維持管理コスト		
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入		
	スポーツ施設の安全対策	A		耐震性	耐震基準	新耐震	
	その他		耐震診断の実施		-		
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化	
2 次評価の必要性				無			

スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.7		基本情報 (ネーミングライツ:ダイナックス沼ノ端アイスアリーナ)				現況写真
施設情報	施設名称	沼ノ端スケートセンター		住所	北栄町3丁目2-3		
	施設種別	スケートリンク	屋内外別	屋内	該当地域	東地区	
	設置年	H12	構造	S造	階層	1F	
	敷地面積	3,237㎡	延床面積	3,181㎡	運営形態	指定管理	
競技規模	スケートリンク(60m×28m)						
その他	観客席	固定	236	照明設備	有	駐車場	
		立見他	85	防災機能			
施設の現況評価(1次評価)							
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定
安全性 機能性	安全性	A	良	経済性	改善コスト		
	機能性	B			維持管理コスト		
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入		
	スポーツ施設の安全対策	A		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし
	その他		耐震診断の実施		-		
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化	
2次評価の必要性				無			

管理番号	No.8		基本情報				現況写真
施設情報	施設名称	ときわスケートセンター		住所	ときわ町3丁目8-5		
	施設種別	スケートリンク	屋内外別	屋内	該当地域	西地区	
	設置年	S54	構造	RC造	階層	2F	
	敷地面積	8,539㎡	延床面積	3,453㎡	運営形態	指定管理	
競技規模	スケートリンク(60m×28m)						
その他	観客席	固定	350	照明設備	有	駐車場	
				防災機能			
施設の現況評価(1次評価)							
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定
安全性 機能性	安全性	C	劣	経済性	改善コスト	C	良
	機能性	C			維持管理コスト	C	
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入	B	
	スポーツ施設の安全対策	B		耐震性	耐震基準	旧耐震	問題あり
	その他	機能停止時点で廃止	耐震診断の実施		未実施		
施設の方向性		改廃		整備手法		廃止	
2次評価の必要性				有			



スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.9		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	新ときわスケートセンター		住所	ときわ町3丁目8-1			
	施設種別	スケートリンク	屋内外別	屋内	該当地域	西地区		
	設置年	H26	構造	S造	階層	1F		
	敷地面積	7,991 m ²	延床面積	3,297 m ²	運営形態	指定管理		
競技規模	スケートリンク(60m×30m)							
その他	観客席	固定 169	照明設備	有	駐車場	73台		
		立見 341	防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	A	良	経済性	改善コスト			
	機能性	A			維持管理コスト			
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入			
	スポーツ施設の安全対策	A		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし	
	その他		耐震診断の実施		-			
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化		
2次評価の必要性				無				

管理番号	No.10		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	ハイランドスポーツセンター		住所	字高丘41			
	施設種別	スケートリンク	屋内外別	屋内・外	該当地域	中央地区		
	設置年	S42	構造	S造	階層	2F		
	敷地面積	40,500 m ²	延床面積	6,313 m ²	運営形態	指定管理		
競技規模	スケートリンク(1週400m、幅14m) ローラースケート場(1週234m、幅6m) 管理棟(S42建築、延床面積4,265m ²) 屋内スタンド(H17建築、延床面積2,048m ²)							
その他	観客席	固定 700	照明設備	有	駐車場	100台		
			防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	C	劣	経済性	改善コスト	D	劣	
	機能性	C			維持管理コスト	D		
	屋外スポーツ施設の状況	C			収入	B		
	スポーツ施設の安全対策	C		耐震性	耐震基準	旧耐震	問題あり	
	その他		耐震診断の実施		未実施			
施設の方向性		改廃		整備手法		再整備		
2次評価の必要性				有				

スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.11		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	緑ヶ丘公園庭球場		住所	清水町3丁目3-26			
	施設種別	庭球場	屋内外別	屋内・外	該当地域	中央地区		
	設置年	S58	構造	S造	階層	2F		
	敷地面積	28,340 m ²	延床面積	290 m ²	運営形態	指定管理		
競技規模	全天候型コート20面							
その他	観客席	680	照明設備	有	駐車場	143台		
			防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	B	良	経済性	改善コスト			
	機能性	B			維持管理コスト			
	屋外スポーツ施設の状況	B			収入			
	スポーツ施設の安全対策	A		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし	
	その他	H28年度改修			耐震診断の実施	-		
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化		
2次評価の必要性				無				

管理番号	No.12		基本情報 (ネーミングライツ:とましんスタジアム)				現況写真	
施設情報	施設名称	緑ヶ丘野球場		住所	清水町3丁目3-26			
	施設種別	野球場	屋内外別	屋内・外	該当地域	中央地区		
	設置年	S61	構造	RC造	階層	2F		
	敷地面積	22,000 m ²	延床面積	1,056 m ²	運営形態	指定管理		
競技規模	両翼98m、中堅122m、ブルペン(両ダッグアウト各2組) 電光掲示板、スピード表示 ※H27改修							
その他	観客席	固定 1,066	照明設備	有	駐車場	162台		
		芝生 2,500	防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	B	良	経済性	改善コスト			
	機能性	A			維持管理コスト			
	屋外スポーツ施設の状況	A			収入			
	スポーツ施設の安全対策	A		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし	
	その他	H27年度改修			耐震診断の実施	-		
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化		
2次評価の必要性				無				

スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.13		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	清水野球場		住所	清水町4丁目1-1			
	施設種別	野球場	屋内外別	屋外	該当地域	中央地区		
	設置年	H16	構造		階層			
	敷地面積	56,413 m ²	延床面積	m ²	運営形態	指定管理		
競技規模	両翼 95m、中堅 120m、得点板、カウンター							
その他	観客席	1,000	照明設備	無	駐車場	109台		
			防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	C	劣	経済性	改善コスト	B	劣	
	機能性	C			維持管理コスト	B		
	屋外スポーツ施設の状況	C			収入	C		
	スポーツ施設の安全対策	B		耐震性	耐震基準		対象外	
	その他	民間事業者所有			耐震診断の実施			
施設の方向性		改善		整備手法		機能改修		
2次評価の必要性				有				

管理番号	No.14		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	少年野球場		住所	清水町3丁目3-26			
	施設種別	野球場	屋内外別	屋内・外	該当地域	中央地区		
	設置年	S62	構造	RC造	階層	1F		
	敷地面積	7,745 m ²	延床面積	25 m ²	運営形態	指定管理		
競技規模	両翼 77m、中堅 87m、得点板、カウンター							
その他	観客席	500	照明設備	無	駐車場	162台		
			防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	B	劣	経済性	改善コスト	C	劣	
	機能性	B			維持管理コスト	C		
	屋外スポーツ施設の状況	C			収入	C		
	スポーツ施設の安全対策	C		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし	
	その他				耐震診断の実施	-		
施設の方向性		改善		整備手法		機能改修		
2次評価の必要性				有				


スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.15		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	緑ヶ丘公園陸上競技場		住所	清水町3丁目3-26			
	施設種別	陸上競技	屋内外別	屋内・外	該当地域	中央地区		
	設置年	H26	構造	S造	階層	1F		
	敷地面積	36,900㎡	延床面積	695㎡	運営形態	指定管理		
競技規模	第3種公認陸上競技場、全天候型400mトラック センターハウス(男女更衣室、シャワー室、トイレ、多目的トイレ、会議室他)							
その他	観客席	芝 6,000	照明設備	無	駐車場	49台		
			防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	A	良	経済性	改善コスト			
	機能性	A			維持管理コスト			
	屋外スポーツ施設の状況	A			収入			
	スポーツ施設の安全対策	A		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし	
	その他		耐震診断の実施		-			
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化		
2次評価の必要性				無				

管理番号	No.16		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場		住所	清水町3丁目3-26			
	施設種別	サッカーラグビー	屋内外別	屋内・外	該当地域	中央地区		
	設置年	S63	構造	RC造	階層	2F		
	敷地面積	38,000㎡	延床面積	276㎡	運営形態	指定管理		
競技規模	人工芝2面(H30改修)、天然芝1面 管理棟(放送設備、更衣室、男女トイレ、シャワー室、会議室他)							
その他	観客席	芝 3,500	照明設備	有	駐車場	143台		
			防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	A	良	経済性	改善コスト			
	機能性	B			維持管理コスト			
	屋外スポーツ施設の状況	A			収入			
	スポーツ施設の安全対策	A		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし	
	その他	H30年度改修	耐震診断の実施		-			
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化		
2次評価の必要性				無				

スポーツ施設個別評価シート

管理番号	No.17		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	屋内ゲートボール場		住所	矢代町2丁目1-12			
	施設種別	ゲートボール	屋内外別	屋内	該当地域	中央地区		
	設置年	H1	構造	S造	階層	1F		
	敷地面積	3,371㎡	延床面積	1,182㎡	運営形態	指定管理		
競技規模	ゲートボールコート2面、テニスコート1面 ※表層グリーンサンド							
その他	観客席		照明設備	有	駐車場	30台		
			防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	B	良	経済性	改善コスト			
	機能性	B			維持管理コスト			
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入			
	スポーツ施設の安全対策	B		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし	
	その他		耐震診断の実施		-			
施設の方向性		維持		整備手法		長寿命化		
2次評価の必要性				無				

管理番号	-		基本情報				現況写真	
施設情報	施設名称	ハイランドスポーツセンター屋内		住所	字高丘41			
	施設種別	スケートリンク	屋内外別	屋内	該当地域	中央地区		
	設置年	S45	構造	S造	階層	1F		
	敷地面積	40,500㎡	延床面積	3,180㎡	運営形態			
競技規模	スケートリンク(60m×28m)							
その他	観客席		照明設備	有	駐車場	100台		
			防災機能					
施設の現況評価(1次評価)								
項目		現況評価	判定	項目		現況評価	判定	
安全性 機能性	安全性	D	劣	経済性	改善コスト			
	機能性	D			維持管理コスト			
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入			
	スポーツ施設の安全対策	D		耐震性	耐震基準	旧耐震	問題あり	
	その他	H23 廃止	耐震診断の実施		未実施			
施設の方向性		改廃		整備手法		廃止		
2次評価の必要性				有				

スポーツ施設個別評価シート

管理番号	-						
基本情報						現況写真	
施設情報	施設名称	ハイランドスポーツハウス		住所	字高丘 26		
	施設種別	宿泊所	屋内外別	屋内	該当地域	中央地区	
	設置年	S44	構造	RC造	階層	3F	
	敷地面積	2,100 m ²	延床面積	539 m ²	運営形態		
競技規模	宿泊収容人数 52 名、宿泊室 14 室(浴質 12 室、和室 2 室)						
その他	観客席		照明設備	有	駐車場		
			防災機能				
施設の現況評価(1次評価)							
項目		現況評価	判定	項目		判定	
安全性 機能性	安全性	D	劣	経済性	改善コスト		
	機能性	D			維持管理コスト		
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入		
	スポーツ施設の安全対策	-		耐震性	耐震基準	旧耐震	問題あり
	その他	H26 廃止			耐震診断の実施	未実施	
施設の方向性		改廃		整備手法		廃止	
2次評価の必要性				無			



管理番号	-						
基本情報						現況写真	
施設情報	施設名称	サイクリングターミナル		住所	字高丘 19-1		
	施設種別	宿泊所	屋内外別	屋内	該当地域	中央地区	
	設置年	S59	構造	RC造	階層	2F	
	敷地面積	6,211 m ²	延床面積	1,488 m ²	運営形態		
競技規模	宿泊収容人数 80 名、宿泊室 12 室(和室) 研修室、洗濯室、乾燥室他						
その他	観客席		照明設備	有	駐車場		
			防災機能				
施設の現況評価(1次評価)							
項目		現況評価	判定	項目		判定	
安全性 機能性	安全性	C	劣	経済性	改善コスト		
	機能性	D			維持管理コスト		
	屋外スポーツ施設の状況	-			収入		
	スポーツ施設の安全対策	-		耐震性	耐震基準	新耐震	問題なし
	その他	H27 廃止			耐震診断の実施	-	
施設の方向性		改廃		整備手法		廃止	
2次評価の必要性				無			



第3章 スポーツ施設の環境評価

1 スポーツ施設に関する政策方針の検討

本市では、今後、多くの公共施設の老朽化が進み、維持管理及び整備等に多額の費用が必要となることが予想されることから、平成26年3月に「公共施設白書」を作成し、3つの基本理念と3つの基本方針を公共施設の在り方を考える上での「総合的な指針」として位置付け、今後の公共施設の適正配置は、この指針に従って推進することが重要であるとしています。

公共施設白書における考え方は、施設の耐震化や老朽化対策のみならず、利用状況や費用対効果からの視点を踏まえ、将来的に統廃合を検討するとともに、一機能一施設から多機能・複合的公共施設への転換を図り、それに対応する総合的な管理・運営を求めています。

そのためには、各施設の維持・管理・運営について検討し、社会環境の変化や行政サービスに対するニーズを捉えながら、将来を見据えた計画が必要となるため、平成28年3月に公共施設適正化配置基本計画を策定しています。

【公共施設白書－総合的な指針】

1 基本理念

- ・ 3M（ムリ、ムラ、ムダ）の解消とリスクマネジメント
- ・ ハコモノに依存しない行政サービスの提供
- ・ 市民と共に考える公共施設
- ※ 一つの機能のために一つの施設を整備する考え方からの脱却
- ※ 地域単位ごとの公共施設フルセットからの脱却

2 基本方針

（1）基本方針1

人口減少に伴う施設の機能を維持する方策を講じながら、公共施設の保有総量を段階的に縮減するため、原則として新たな施設は建設しない。

ただし、政策上、新たな公共施設の建設を計画する場合、既存施設の廃止を進めることで、施設保有総量の抑制を図るものとする。

- ※ 公共施設のスクラップ&ビルドで人口規模に合わせた施設の配置とし、保有総数の抑制を図る。

（2）基本方針2

現有の公共施設が更新（建替）時期を迎える場合、機能の優先順位に基づき施設維持の可否を決め、優先度の低い施設は原則として全て統廃合を検討する。

- ※ 機能の優先度は、市民ニーズを踏まえて柔軟に対処する。

(3) 基本方針3

公共施設マネジメントを一元化して、市民と共に公共施設適正配置を推進する。

※ 全庁的組織により適正配置の推進に取り組む。

※ 職員及び市民の理解と協働で推進する。

2 スポーツ施設の基本方針に関する検討（2次評価）

(1) 基本方針の概要

個別の施設ごとに基本方針を定め、1次評価の方向性や政策優先度を加味し、施設が適正に配置されているかの検討を行います。

基本方針の概要

基本方針	内 容
スポーツ施設としての機能保持	現在の施設の機能を保持する。老朽化やそれに伴う維持管理費の増加に対応できるように計画的な対応方針を施設ごとに検討する。老朽化が激しいものについては再整備の時期や方法について検討する。
総量コントロール	将来的に維持管理し続けることができない施設について、廃止や転用の時期、方法について検討する。
施設不足の解消	スポーツ施設が不足している状態である場合、利用可能なスポーツ施設を増やすことを目指す。

(2) 政策優先度の検討

基本方針の検討にあたって、「政策優先度」を評価します。

政策優先度については、「利用状況」や「ニーズ」による定量的な評価やスポーツ環境等に関する情報に基づき、総合的な検討を行います。

政策優先度の評価基準

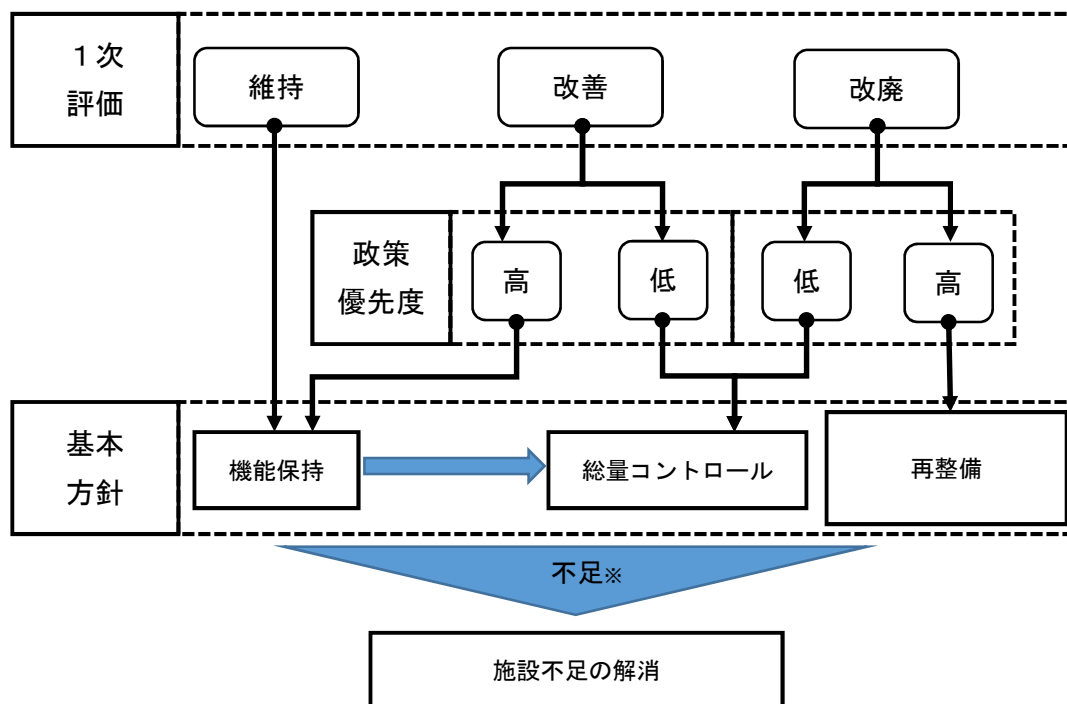
評 価 基 準	評価
✓ 施設利用が多い。 ✓ 現在の施設利用者の満足度が高い。 ✓ 運営や施設機能の向上により、大幅に利用状況が改善される見込みがある。 ✓ 障がい者スポーツが盛んに行われている。 ✓ 圏域にそのスポーツの実施場所がなく、希少性が高い。 ✓ 整備目的が明確で、目的に合致した利用が継続的に行われている。 ✓ 地域防災計画において、災害拠点や避難施設として指定されており、代替できる施	高

<p>設がない。</p> <p>✓ 設置された経緯が地元からの要望である等、地元にとっては重要な施設である。</p>	
<p>✓ 施設の利用が少ない。</p> <p>✓ 現在の施設利用者の満足度が低い。</p> <p>✓ 特定の団体が利用し、実利用者が少ない。</p> <p>✓ 周辺の人口動態等を踏まえると、運営や施設機能の向上を図っても利用状況の改善の見込みがない。</p> <p>✓ 整備目的や施設内容と利用実態が整合していない。</p> <p>✓ 学校開放等の既存施設の活用により、現在の利用を代替できる。</p> <p>✓ 地域防災計画において、災害拠点や避難施設としての指定がされていない。 若しくは、指定されているが、近隣に代替できる施設がある。</p>	<p>低</p>

(3) 基本方針の検討

- ・ 1次評価が「維持」となった施設は、基本方針を「機能保持」とする。
- ・ 1次評価が「改善」若しくは「改廃」となった施設は、政策優先度の評価を行う。
- ・ 1次評価が「改善」で、政策優先度が「高」の施設は、基本方針を「機能保持」とし、引き続きスポーツ施設として使用していく施設とする。政策優先度が「低」の施設は、基本方針を「総量コントロール」とし、施設の削減、転用等の検討を行う施設とする。
- ・ 1次評価が「改廃」で、政策優先度が「高」の施設については、基本方針を「再整備」とする。政策優先度が「低」の施設については、基本方針を「総量コントロール」とし、施設の削減、転用等の検討を行う施設とする。
- ・ 基本方針を「再整備」とした施設であっても、市の財政状況により、維持可能な財源確保が困難と判断された場合は、「経済性」の低い施設を優先に「総量コントロール」へ移行する。

スポーツ施設基本方針の検討（2次評価）



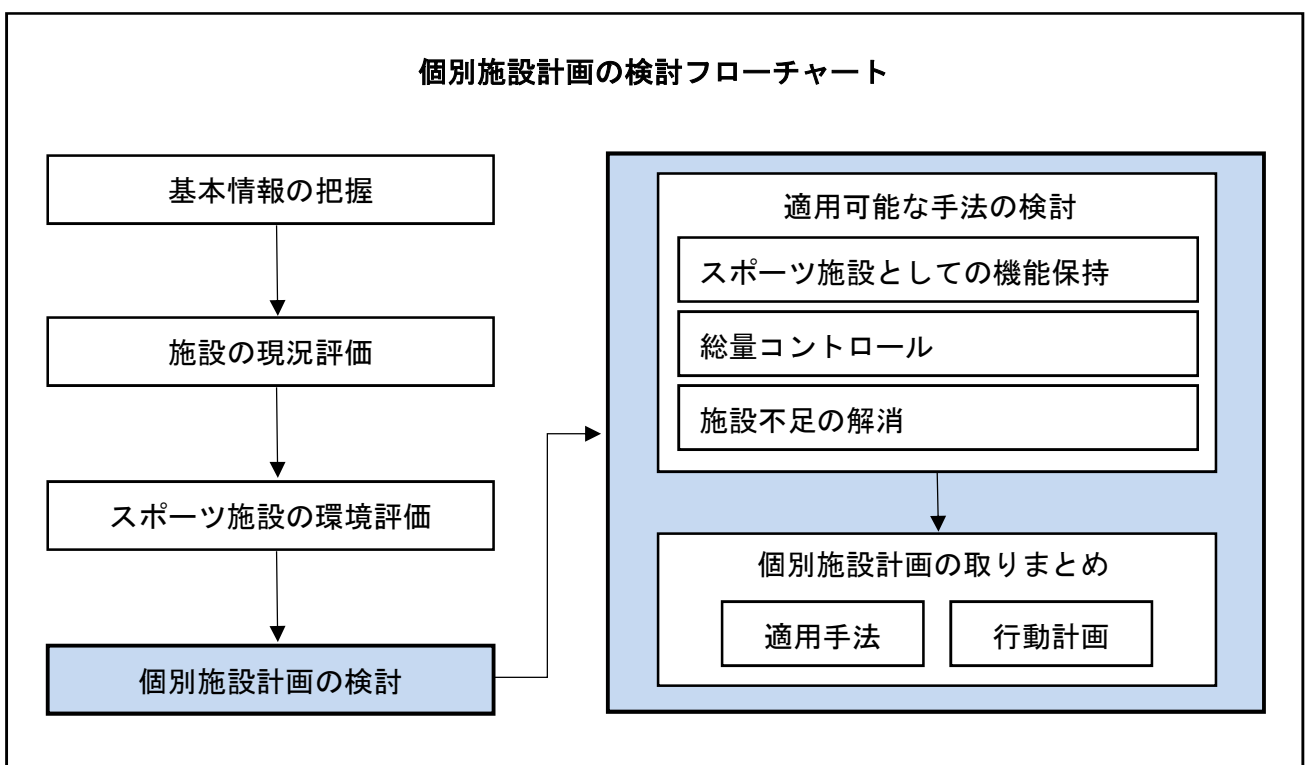
※既存施設の有効活用等を十分検討した上で、政策優先度を満足できない場合に財政状況も勘案した上で「施設不足の解消」の選択を判断する。

第4章 個別施設計画の策定

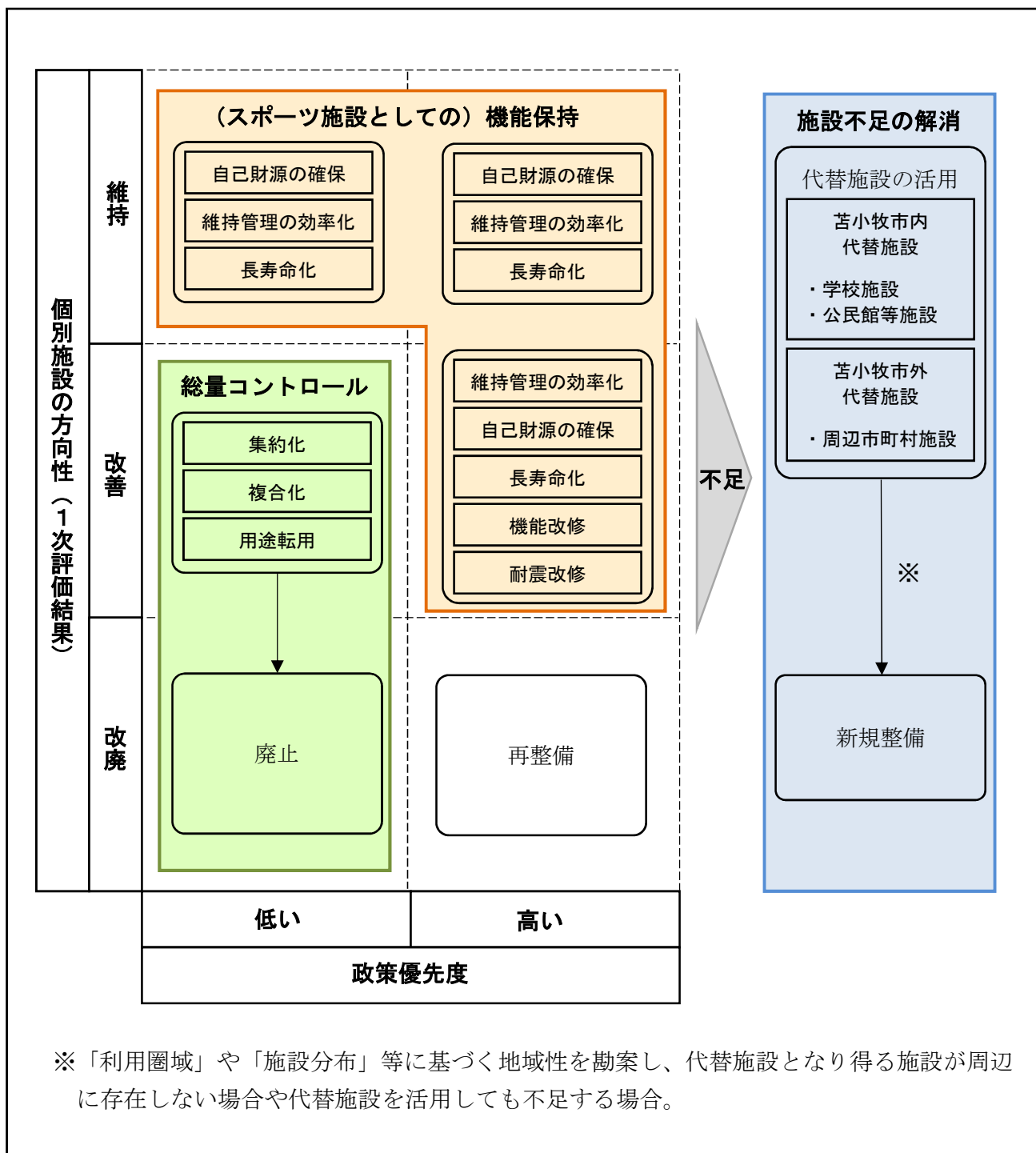
1 適用可能な手法の検討

スポーツ施設の基本方針に基づき、個別に適用可能な手法及び今後の具体的な実施内容を検討しました。

適用可能な手法の検討については、1次評価と政策優先度を2軸とするマトリクスを施設種別ごとに作成し、「利用圏域」や「施設分布」等に基づいて、スポーツ施設の特徴や偏りといった地域性を加味した上で、「総量コントロール」や「施設不足の解消」における手法を検討しました。



スポーツ施設の基本方針（2次評価）のマトリクス



（1）スポーツ施設の機能保持

「（スポーツ施設としての）機能保持」における適用手法の考え方は、個別施設の方向性【1次評価】の結果に基づき、「長寿命化」「機能改修」「耐震改修」を選択しました。

1次評価の結果から「改廃」となった施設のうち、政策優先度が高い施設については「再整備」とし、政策優先度の低い施設については「廃止」としました。

「機能保持」の適用方法

手 法	内 容	解 説
財源確保	苫小牧市以外での財源を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間のノウハウが最大限発揮されるような自由度の高い指定管理制度、コンセッションを導入し、施設の収益性を高め、その収益を投資して施設の維持管理や機能更新を図る。 ・ 施設の利用料金の見直しや、施設の維持管理に充当する寄付、基金の設置等を行う。
維持管理の効率化	効率的な運営方法や管理方法を取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者や包括管理委託等により、民間のノウハウによる効率的な管理運営を図る。 ・ 予約システムや窓口業務のIT化、施設管理のIT化による光熱水費等の削減を図る。
長寿命化 (計画的保全)	建築物の耐用年数を定め、その期間適切な施設の保全が行われるよう計画的な対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全計画の策定等により保全に関する業務の効率化を図る。 ・ 事故等の施設に起因するリスクを回避する（予防保全）。 ・ 保全コストの平準化により計画的、効率的な保全を実現し、ライフサイクルコストの削減を図る。
機能改修	経年劣化や社会的劣化に対応した改修を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の構造体、仕上げ、設備等の経年劣化に対応した改修を行う。 ・ 設備システムや附帯設備（トイレ、シャワー、更衣室等）等の陳腐化、利用者ニーズの変化への対応等、社会的劣化へ対応するための改修を行う。 ・ 改修に当たっては施設の運営者のニーズを十分に把握し、利用者数や利用料金等による収入の増加を想定した適切な投資を行う。
耐震改修	建築物の耐震性を確保するために改修を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の耐震基準に対する耐震性能を満たしていない施設について、耐震改修を行う。
再整備	同等の機能を有する施設を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化が進んでいるが政策優先度の高い施設については、再整備を行う。 ・ この際、PPP/PFIなどの民間資金を活用した事業スキームの検討、将来の人口や財政見直しを踏まえ、ランニングコストを想定した持続的な施設設計、運営者の収益性の確保が期待できる使いやすい施設内容の検討等を通じ、将来にわたって適切なストックとなるよう十分に検討を行う。

機能維持 現状維持	施設の機能を維持し、長期的に使用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・適用手法の選択は、屋内施設は「機能維持」、屋外施設は「現状維持」とする。 ・既存施設の不具合箇所を必要に応じて整備し、長期的に使用できるようにする。
--------------	---------------------	--

(2) 総量コントロール

「総量コントロール」における適用手法の考え方は、個別施設の方向性【1次評価】が「改善」となった施設について、「利用圏域」や「施設分布」等に基づく地域性（必要性やニーズ等）を勘案し、集約化・複合化・用途転用の可能性がない場合は、改修費をかけずに「廃止」としました。

「総量コントロール」の適用方法

手 法	内 容	解 説
集約化	既存の同種施設を統合する。	<ul style="list-style-type: none"> ・同種の施設があり、利用状況や立地を踏まえて、一つに集約した場合でも、利用者ニーズを満たすことができるなど、集約化の可能性がある場合には積極的に集約化を図る。 ・将来の維持管理の財源確保が難しい場合には、同種の施設の集約化を図りつつ、集約化した施設の運営改善や機能更新により、スポーツ環境の質の低下を最小限にするよう配慮する。
複合化	スポーツ施設以外の施設の機能を有した施設と複合化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・文教施設等、周辺の公共施設の改築などとあわせて、複合化を図る。 ・スポーツ施設とは異なる機能を含んだ施設となるため、複合化する施設の所管部局や財政部局等と調整する。 ・複合化に際しても、集約化や建替再整備と同様に、スポーツ環境の質の確保や将来にわたって適切なストックとなるよう計画する。
用途転用	施設を改修し、他の施設として利用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設として維持していく優先度が著しく低く、改修しても利用の見込みが低い場合等で、周辺でスポーツ以外の機能が強く要請されている場合には、用途転用を検討する。 ・転用用途の所管部局や財政部局等と調整する。

廃止	施設を解体・撤去する。	・スポーツ施設として維持していく優先度が著しく低く、改修しても利用見込みが低い場合等で、用途転用の必要性もない場合には、廃止を検討する。
----	-------------	--

(3) 施設不足の解消

「施設不足の解消」における適用手法の考え方は、「利用圏域」や「施設分布」等に基づく、地域性（必要性やニーズ等）を勘案し、代替施設となり得る施設が周辺に存在しない場合や代替施設を活用しても不足する場合は、「新規整備」を検討しました。

「施設不足の解消」の適用方法

手 法	内 容	解 説
苦小牧市内の代替施設の活用	苦小牧市内の学校体育施設や公民館等のスポーツに活用できる施設等をスポーツ環境として活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・不足しているスポーツ施設の種別、種目、規模等を確認する。 ・不足するスポーツ施設の代替となり得る施設がどこにあるかを確認する。 ・学校体育施設を社会体育施設として管理を外部化し、授業や部活動の利用を優先した上で、一般利用に開放するなど学校開放を最大限活用する。 ・公民館などをスポーツ環境として活用するには、施設の所管部局と調整の上、情報の一元化や予約システムの一体化等により利用を促進することが考えられる。
苦小牧市外の代替施設の活用	隣接する市町村の施設等を市民のスポーツ施設の環境として活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・不足しているスポーツ施設の種別、種目、規模等を確認する。 ・不足するスポーツ施設の代替となり得る施設がどこにあるかを確認する。 ・代替施設となる施設の管理者と調整する。 ・近隣市町村が所有、運営するスポーツ施設の基本情報を共有し、広域的に連携してスポーツ施設を活用する方策を検討する。例えば、協定の締結や市民利用料金の相互適用等が考えられる。

<p>新規整備</p>	<p>新たに施設を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不足しているスポーツ施設の種類、規模等を確認し、既存施設や代替施設の活用を図っても適切なスポーツ環境を提供できないことが明らかである場合には、新規整備を検討する。 ・この際、PPP/PFIなどの民間資金を活用した事業スキームの検討、ランニングコストを想定し、将来の人口や財政見通しを踏まえた持続的な施設設計、運営者の収益性の確保が期待できる使いやすい施設内容の検討を通じ、将来にわたって適切なストックとなるよう十分に検討を行う。
-------------	--------------------	--

2 個別施設計画の取りまとめ

各施設の現況評価（1次評価）及び環境評価（2次評価）を踏まえ、施設毎の適用可能な手法を検討し、今後の施設の運用、維持管理及び整備に関して、【表8】個別施設計画を取りまとめました。

計画期間は、2021年度（令和3年度）から2030年度（令和12年度）までの10年間とし、次期計画については、苫小牧市公共施設白書（平成26年3月策定）、苫小牧市公共施設適正配置基本計画（平成28年3月第1期基本計画策定）及び苫小牧市公共施設等総合管理計画（平成29年1月策定）の見直しを踏まえ、精査するものとします。

ただし、社会情勢や財政状況のほか、スポーツを取り巻く様々な環境の変化等がある場合には、必要に応じて見直しを行います。

【表8】個別施設計画一覧表

No	種別	施設名	設置年	1次評価		2次評価		具体的な実施内容	スケジュール												
				方向性	整備手法	基本方針	適用手法		R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)			
1	体育館	総合体育館	S48	改廃	再整備	再整備	再整備	受電設備を改修し、低濃度PCBを処分する。 胆振日高地方の中核的施設として建替える。 建設地は市内中心部で検討する。	整備	不具合箇所を必要に応じて整備										解体	
									建替計画策定		事業者選定・実施設計・整備										
2	体育館	川沿公園体育館	S63	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。	不具合箇所を必要に応じて整備												
3	体育館	日吉体育館	S54	改善	機能改修	総量 コントロール	複合化	機能維持が難しくなった場合、他施設との複合化 とともに廃止を検討する。	機能維持(他施設との複合化検討)												
4	プール	日新温水プール	H2	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。 施設の個別ボイラーを整備する。	不具合箇所を必要に応じて整備												
									整備												
5	プール 体育館	沼ノ端スポーツセンター	H22	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。	不具合箇所を必要に応じて整備												
6	スケート リンク	白鳥アリーナ	H8	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。 アリーナの吊物機を改修する。	整備	不具合箇所を必要に応じて整備											
7	スケート リンク	沼ノ端スケートセンター	H12	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。 冷凍機配管を改修する。	整備	不具合箇所を必要に応じて整備											
8	スケート リンク	ときわスケートセンター	S54	改廃	廃止	総量 コントロール	廃止	施設機能の停止時点又は低濃度PCBの処分期 限に併せ廃止・解体する。	機能停止時点で廃止			廃止・解体									
9	スケート リンク	新ときわスケートセンター	H26	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。	不具合箇所を必要に応じて整備												
10	スケート リンク	ハイランドスポーツセンター	S42 H17	改廃	再整備	再整備	再整備	管理棟の建替えなど大規模改修を検討する。	維持	大規模改修			不具合箇所を必要に応じて整備								
11	庭球場	緑ヶ丘公園庭球場	S58	維持	長寿命化	機能保持	機能改修	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。 老朽化が著しいコート(8面分)を改修する。	不具合箇所を必要に応じて整備												
									整備												

【表8】個別施設計画一覧表

No	種別	施設名	設置年	1次評価		2次評価		具体的な実施内容	スケジュール											
				方向性	整備手法	基本方針	適用手法		R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)		
12	野球場	緑ヶ丘野球場	S62	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。 観客スタンドの座席を更新する。	不具合箇所を必要に応じて整備											
									整備											
13	野球場	清水野球場	H16	改善	機能改修	機能保持	機能改修	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。	不具合箇所を必要に応じて整備(所有者が民間事業者のため協議が必要)											
14	野球場	少年野球場	S62	改善	機能改修	機能保持	機能改修	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。 ラバーフェンスやバックネットを改修し、観客席の安全対策を講じる。	不具合箇所を必要に応じて整備											
									整備											
15	陸上競技場	緑ヶ丘公園陸上競技場	H26	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。	不具合箇所を必要に応じて整備											
									整備											
									公認											
									不具合箇所を必要に応じて整備											
									整備											
									公認											
16	サッカーラグビー場	緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場	S63	維持	長寿命化	機能保持	機能維持	不具合箇所を整備しながら機能維持を図る。	不具合箇所を必要に応じて整備											
17	ゲートボール場	屋内ゲートボール場	H1	維持	長寿命化	機能保持	機能改修	ゲートボール利用が減少しているため、人工芝化や防球ネットの設置など多目的競技施設への改修を検討する。	不具合箇所を必要に応じて整備											
									整備											
-	スケートリンク	ハイランドスポーツセンター屋内リンク	S45	改廃	廃止	総量コントロール	廃止	H23施設を廃止 ハイランドスポーツセンターの改修に併せ、解体を検討する。	跡地利用検討											
									解体											
									跡地整備											
-	宿泊所	旧ハイランドスポーツハウス	S44	改廃	廃止	総量コントロール	廃止	H26廃止 利活用が困難なため解体する。	解体											
-	宿泊所	旧サイクリングターミナル	S59	改廃	廃止	総量コントロール	廃止(利活用)	H27廃止 民間事業者に宿泊施設として無償貸付し、利活用を図る	無償貸付(22年間)											

※社会情勢や財政状況のほか、スポーツを取り巻く様々な環境の変化等がある場合には、必要に応じて見直しを行う。

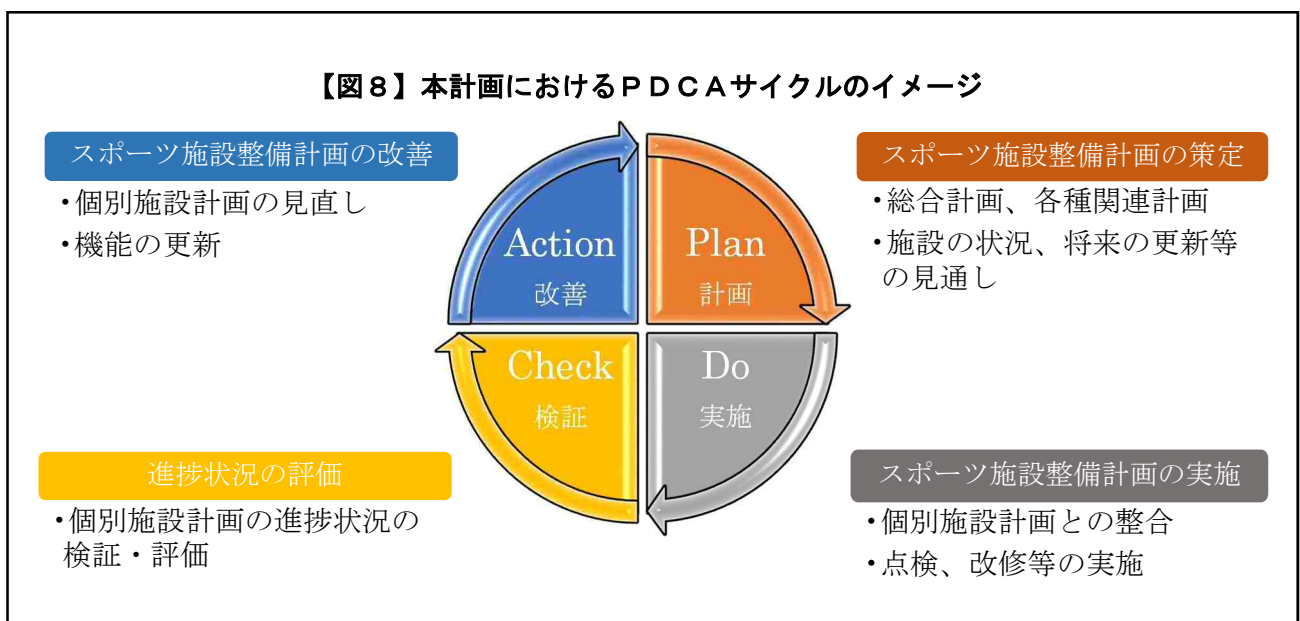
第5章 計画の実施方法

1 フォローアップの実施方針

本計画を適切・確実に実行するために、P D C Aサイクルによる進行管理に取り組んでいきます。

個別施設計画については、国の政策や社会経済情勢、人口動態、利用者ニーズ等の変化に対応しながら、必要に応じて苫小牧市スポーツ推進審議会における状況報告及び検証を行うとともに関連部署及び関係機関・団体と連携を図り、意見を伺った上で、本計画の見直し等を行い、進行管理に努めていきます。

【図8】本計画におけるP D C Aサイクルのイメージ



2 推進・取組体制

本計画の推進については、利用者や競技団体、関係機関、関係部署等との連携を図りながら取り組むことが重要であるため、連絡・調整機能を強化し、計画を適切かつ確実に推進できる体制を構築していきます。

3 情報の見える化

本計画及び進捗状況等については、苫小牧市ホームページで公表します。

また、各施設に係る経費等については、これまでと同様に「各会計決算状況」、「事務事業評価（主要事業レビュー）」等で公表するとともに、利用状況についても苫小牧市ホームページに掲載していきます。

4 情報共有・合意形成の推進

市民への情報共有については、苫小牧市ホームページへの掲載や、各施設の指定管理者等から利用者へ情報提供を行い、個別施設計画を進めていく際には、苫小牧市スポーツ推進審議会や指定管理者、利用者等への説明や意見交換を行いながら進めていきます。

スポーツ都市宣言

宣 言

わたくしたち苫小牧市民は、スポーツを愛し、スポーツを通じて、健康でたくましい心と体をつくり、豊かで明るい都市を築くため、次の目標をかかげてここに「スポーツ都市」を宣言します。

- 1－市民すべてが、スポーツを楽しみましょう。
- 2－力をあわせて、スポーツのできる場をつくりましょう。
- 3－次代をになう青少年のため、地域にも職場にも、スポーツの場と、機会をつくりましょう。
- 4－世界に活躍できる市民を育てて、広く世界の人々と手をつなぎましょう。

昭和41年11月12日